

国際仏教学大学院大学研究紀要
第 27 号 (令和 5 年)

Journal of the International College
for Postgraduate Buddhist Studies
Vol. XXVII, 2023

フランス国立図書館に所蔵される
仏典写本・版本のコレクション概観
— 目録を中心として —

末 木 康 弘

フランス国立図書館に所蔵される 仏典写本・版本のコレクション概観 — 目録を中心として —

末木 康弘

フランス国立図書館 (Bibliothèque nationale de France、略称 BnF) は、Paul Pelliot (1878-1945)¹が敦煌より将来した仏典写本を所蔵していることは周知の通りであるが、その他の地域で収集されたサンスクリット語、ペーリ語、チベット語、モンゴル語、漢語等の仏典写本・版本も所蔵する。

本稿では仏典研究の一助となるべく、長い歴史を有するフランス国立図書館が所蔵する、敦煌写本以外の資料収集の歴史を辿り、収集された資料の概要を示し、目録等の利用ツールについて検討する。また、特定のコレクションやコレクター、目録編纂者等について特筆すべき事柄があれば適宜言及する。

本文にて引用する資料については、以下の要領で表記した。

- ・冒頭に資料番号を付与し、書誌を記述した。
- ・インターネット上に公開されている資料・情報については URL を表記した。
- ・筆者が信賀加奈子 (仏教書誌研究プロジェクト研究員) の協力を得て編纂する "Bibliographical Sources for Buddhist Studies: from the Viewpoint of Buddhist Philology" (以下、BSBS と略す。) の最新版 Version 3.1 (2022 年 10

¹ Pelliot は、中央アジア探検を終えパリへ戻った 2 年後の 1911 年、Collège de France に同氏のために創設された、中央アジア言語歴史考古学講座の教授に就任し、フランス東洋学会の牽引役として活躍した。Moriyasu (森安) 1996.

月5日公開²のレファレンス番号を表記した。

- ・本学附属図書館が所蔵する図書については、請求記号を略号 Lib.のもとに表記した。

フランス国立図書館の起源は古く、Charles 5 世 (1338-1380) の時代まで遡る。名称は時代によって異なり、Librairie du roi, Bibliothèque du roi, Bibliothèque de la Nation, Bibliothèque impériale, Bibliothèque royale, Bibliothèque nationale、そして 1994 年より現在の名称へと変遷している。本稿では、便宜的に現在の名称の省略形「BnF」を統一的に使用する。

1. 東洋語写本・版本全般

BnF 所蔵の東洋語写本・版本全般の概要と目録等の利用ツールを知るには、BnF 刊行の以下の文献が至便である。目録情報の内、BnF 所蔵の内部資料も収録されている。近年これらの資料も BnF の電子図書館「Gallica³」で公開が進捗している。

Fr001.

Manuscripts, xylographes, estampages: les collections orientales du département des Manuscrits: Guide. Sous la direction d'Annie Berthier. Paris: Bibliothèque nationale de France, 2000. 151 p.

Asie du Sud: Sanskrit, 62-64 - Indien, 65-68 - Pāli, 68-70 - etc.; Asie du Sud-Est: Indochinois, 72-81 - Vietnamiens, 84, etc.; Asie centrale et orientale: Fonds Pelliot d'Asie centrale, 91-94 - P. chinois, 94-97 - P. khotanais, 97-98 - P. koutchéen, 98-100 - P. ouïgour, 100-102 - P. ouïgour grotte 181, 102-103 - P. sanscrit, 103-105 - P. sogdien, 105-107 - P. tibétain, 107-108 - P. xixia, 108-110 - P. divers, 110; Autres fonds d'Asie orientale: Mongol, 127-128 - tibétain, 129-131; Collections particulières: Papiers d'orientalistes, 135 - Papiers Bumouf, 136 - Papiers Léon Feer, 137.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k209175g.image>

² <http://id.nii.ac.jp/1153/00000597/>

³ <https://gallica.bnf.fr/accueil/fr/content/accueil-fr?mode=desktop>

(BSBS A012, Lib.R022.2/BI)

2. インド諸語写本

世界各地に所蔵されるサンスクリット語をはじめとするインド諸語の写本目録全般に関する最も優れた参考書目は、1965年に出版された Klaus Ludwig Janert (1922-1994)⁴編纂の次の一書であろう。

Fr002.

Klaus Ludwig Janert: An annotated bibliography of the catalogues of Indian manuscripts, pt. 1. Wiesbaden: Franz Steiner, 1965. 175 p. (VOHD, Suppl. 1)

<https://doi.org/10.26015/adwdocs-1837>

(BSBS C1.1.001, Lib.R929.8100/JA)

本書では、各目録の書誌が所蔵機関の所在地のアルファベット順、年代順に配列され、内容を略述する。本書について管見では、J. W. de Jong (1921-2000) と Jean Filliozat (1906-1982) の書評を認める⁵。前者は日本で出版された仏典写本目録、後者はフランスで刊行された古い時代の目録を補完する。Janert は、本書の訂正と追加資料を第 2 部として出版する計画であった (p. 18) が刊行されなかったため、第 1 部出版後約 60 年間に出版された目録を収録する第 2 部の編纂が俟たれる。本稿にて本書収録文献を引用する場合は、"Fr002: Janert" としてレファレンス番号を表記する。BnF 所蔵目録は、Nos. 245-256 に収録されている。

サンスクリット語仏典写本については、多くの書目を提供し⁶、斯学を

⁴ ドイツ・ケルン大学インド学教授 (在職: 1963-1984)。ドイツ国内に所蔵されるインド語写本の目録 *Indische Handschriften* の第 1 (1962)-11 分冊 (1991) を VOHD の第 2 巻として編纂。Janert 個人のインド語写本コレクション (*Sammlung Janert*) は逝去後、Staatsbibliothek zu Berlin - Preussischer Kulturbesitz に所蔵され、目録が同叢書第 2 巻、第 15 (2003)-19 分冊 (2016) として出版されている。

⁵ J. W. de Jong in *III*, 10 (1968), p. 300-302, Jean Filliozat in *JA*, 255 (1967), p. 431-432.

⁶ Yuyama (湯山) 1968, 1970, 1979, 1992 等をはじめとして多数に及ぶ。

裨益する湯山明 (1933-2019) が"Janert: Fr002"の不足分を補完し、『仏教文献学徒の利用のためのサンスクリット語仏典写本の書誌案内』を刊行して写本利用の便宜を図っている。小冊子ではあるが、1990年頃までに刊行された、世界に散在するサンスクリット語仏典写本の目録・解題等を網羅した著作である。1992年以降の著作については筆者が"BSBS"にて増補し⁷、Version 2.6にて本書収録分と増補分の統合を図った。

Fr003.

Akira Yuyama: Buddhist Sanskrit manuscripts: a bibliographical guide for the use of students in Buddhist philology. Tokyo: Library of the International Institute for Buddhist Studies, 1992. xi, 28 p. (Bibl. Ind. Buddh, pamphlet 2)

Catalogue references: 8. Bibliothèque Nationale (Paris), p. 8.

IV. Central Asian manuscripts, c) Pelliot Collection (Fonds Pelliot sanscrit), p. 21-22.

(BSBS B1.1.001, Lib.R180.320/YU)

BnFにおけるサンスクリット語仏典写本の収集は、19世紀前半のEugène Burnoufの時代まで待たなければならないが、18世紀フランス・インド学の草創期⁸から今日に至るBnF所蔵のインド諸語写本について、書誌学的観点からも調査・研究された論著には以下のものがあり、すべてオンラインで閲覧できる。

Fr004.

定方晷 (Akira SADAKATA) : パリ国立図書館所蔵のサンスクリット写本とその目録 (Les manuscrits sanscrits conservés à la Bibliothèque nationale de Paris et leurs catalogues). In: IBK, 14, 2 (1966), 847-839.

<https://doi.org/10.4259/ibk.14.847>.

⁷ BSBS B1.2. Catalogue references 参照。Harrison & Hartmann 2014, p. xx.
[https://buddhistuniversity.net/exclusive_01/From%20Birch%20Bark%20to%20Digital%20Data%20\(Preview\).pdf](https://buddhistuniversity.net/exclusive_01/From%20Birch%20Bark%20to%20Digital%20Data%20(Preview).pdf)

⁸ Filliozat, Jean 1987, p. 105ff.

Fr005.

Jérôme Petit: Gestion des fonds de manuscrits indiens dans les bibliothèques françaises. Mémoire d'étude, mars 2008. 90 p.

<https://www.enssib.fr/bibliotheque-numerique/notices/1743-gestion-des-fonds-de-manuscrits-indiens-dans-les-bibliotheques-francaises>

(BSBS B1.1.003)

Bibliothèque nationale de France - Bibliothèque de la Société Asiatique - Bibliothèque de l'Institut de Civilisation Indienne - Bibliothèque du Musée des Arts asiatiques – Guimet - Bibliothèque de l'École française d'Extrême-Orient - Bibliothèque de l'Institut national des Langues Orientales.

Fr006.

Jérôme Petit: Fonds indiens et catalogues disponibles à Paris au XIXe siècle; Antoine-Léonard de Chézy et les débuts des études sanskrites en Europe, 1800-1850. June 2015, Paris, France.

https://shs.hal.science/BNF_MSS/hal-01205318

(BSBS M1.10.004(5))

Fr007.

Jérôme Petit: Missionaries, travelers, and scholars: the building of an Indian manuscripts collection in the National Library of France. South Asia Archives & Library Group Conference, Jul 2015, Paris, France.

<https://hal.archives-ouvertes.fr/hal-01205314/document>

(BSBS C1.2.6.1.014)

Fr008.

Jérôme Petit: For a history of the catalogues of Indian manuscripts in Paris. In: ढो. Śrī Kanubhāi Vra. Śheṭh: Abhinandana grantha [Dr. Kanubhai V. Sheth felicitation volume]. Śrutaratnākara, 2017. p. 172-186.

<https://hal.science/hal-01593318/document>

Fr009.

Jacqueline Lee-Fung-Kai: Manuscrits palis dans leur environnement et le cas particulier de leur gestion dans les bibliothèques françaises. Mémoire d'étude, janvier 2009. 82 p.

<http://www.rechercheisidore.fr/search/resource/?uri=10670/1.yhlgjh>.

(BSBSC12.6.002)

フランス・インド学の碩学 Jean Filliozat の校閲を経た定方晟の論文 (Fr004) は信頼性に富み、サンスクリット語写本コレクション受入れの歴史と目録を年代順に一覧できて至便である。BnF 写本部、南・東南アジアコレクション部に所属する Jérôme Petit の論著 (Fr005-008) は、BnF 保存の内部資料も利用しているので参照に値する。特に Fr008 では、出版された目録と未出版目録を年代順に一覧できる。パーリ語写本の専門家 Jacqueline Filliozat の指導下でまとめられた Jacqueline Lee-Fung-Kai の著作 (Fr009) も BnF をはじめとするフランス国内の図書館に所蔵されるパーリ語写本コレクションの歴史と現状について有益な情報を提供する。

BnF の Website 'Archives et manuscrits' では、言語別に写本の目録情報が掲載されている。目録に収録された写本がデジタル化されている場合は、写本の書誌と 'Gallica' で公開されている画像がリンク付けされ閲覧できるので利用価値が高い⁹。同サイトの 'Rechercher dans la Catalogue BnF Archives et manuscrits' ではテキスト名での検索が可能である。

後述する Jean Filliozat の『BnF 所蔵サンスクリット語写本目録』 (Fr030) の「序論」¹⁰は、インド諸語写本収集の歴史を知るのに有益である。

フランスにおけるインド諸語写本の受入れは、Louis 14 世 (1638-1715) の統治下、シャム王国より BnF に寄贈されたシャム文字パーリ語貝葉写

⁹ <http://archivesetmanuscrits.bnf.fr>
<https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/pageCollections.html?col=1>.

¹⁰ Fr030, Introduction, p. i-xviii.

本が最初であり、1687年に登録された¹¹。

BnFにおいてインド諸語写本の組織的収集は1720年代後半から始まり、その担い手はフランス統治下のインドに派遣されていたイエズス会士であった¹²。

1726年、インドに赴任した Jean François Pons (1688-1752 Chandemagor)¹³は、西ベンガルのシャンデルナゴル在任中、BnF 館長 Jean Paul Bignon (Abbé Bignon 1662-1743) の要請に応じ、168点の写本とそれらを9種に分類したリストを添えてパリに送った¹⁴。以下がその分類リストである。

Fr010.

Catalogue general des livres qui ont été envoyez de Chandemagor dans le royaume de Bengale, pour la Bibliothèque du roy.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b105278700/f9.image>.

次の文献にも翻刻出版されている¹⁵。

¹¹ Filliozat, Jacqueline 2009 (French version), p. 281, 2013 (English version), p. 63. 後述する Fr025, VI: manuscrits siamois, serial no. 260.

¹² イタリアのフランチェスコ会一派カプチン会士 Francesco della Penna (1680-1745) やイエズス会士 Ippolito Desideri (1684-1733) も同時期にチベットで活動し、学術的功績を遺している。de Jong 1997, p. 18-19. 同じくイエズス会士、Costanzo Giuseppe Beschi (1680-1747) は南インドでタミール語の辞書や文法書の編纂等をして活躍した。北京で活動したフランスのイエズス会士で最後の中国学者 Jean-Joseph-Marie Amiot (錢德明 1718-1793 Peking) は多くの著作を遺したが、仏教学に関係する著作としては "Dictionnaire polyglotte [sanskrit-tibétain-mandchou-mongol-chinois]" (1783) が注目され、写本がBnFに保存されている。Sommervogel 1890, t. 1, col. 298-299, Pfister 1976, p. 837-860, Demiéville 1966, p. 71, Yuyama (湯山) 1988, p. 331-334, Pouillon 2008 (François Picard執筆), p. 14-15. 管見では、インドとチベットにおけるキリスト教徒の活動については、Neill 1984-1985、イエズス会士の著作については、Sommervogel 1890-1901が参考になり、中国におけるイエズス会士の伝記、著作については Pfister 1976が至便である。

¹³ Sommervogel 1895, t. 6, col. 999-1002.

¹⁴ Rocher, Rosane 2001, p. 1158.

¹⁵ ポンディシエリーの Etienne le Gac (1671-1738) が送付した写本については、Fr011, p. 837-851, 1190-1192 を参照。マイソールの Jean Calmette (1693-1740) も写本

Fr011.

Listes de manuscrits envoyés de l'Inde par les Jésuites (1729-1735), 1: Catalogue general des livres qui ont été envoyez de Chandernagor dans le royaume de Bengale, pour la Bibliothèque du roy*. In: Mission archéologiques françaises en Orient aux XVII^e et XVIII^e siècles, ptie. 2. Paris: Imperierie nationale, 1902. p. 1179-1185.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k634833x>.

* Bibliothèque nationale, ms. nouv. acq. franç. 5442, fol. 1-4.

BnF が所蔵するイエズス会士の写本送付リストをはじめ、インド諸語写本の未出版目録の一部を'Archives et manuscrits'の他、下記の Website でも閲覧できる¹⁶。

Fr012.

Emmanuel Francis: BnF handlists, catalogues (manuscript). In: Texts Surrounding Texts: Satellite Stanzas, Prefaces and Colophons in South-Indian Manuscripts (Collections of the Paris BnF and Hamburg Stabi)

<https://tsthypotheses.org/27>.

写本収集の成果は 1739 年、Collège royal (現在の Collège de France) の Étienne Fourmont (1683-1745)¹⁷により目録が出版された。

Fr013.

Stephani [=Étienne] Fourmont & G. Vilefroy: Catalogus codicum mancriptorum Bibliothecae Regiae, 1. Paris: Typographia regia, 1739. 458 p.

Codices siamenses, p. 433. - Codices indici, p. 434-448.

https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b10536324s/fl_image

を収集・送付している。この両イエズス会士の写本収集については、Colas 1997, App 2010, p. 372-382 を参照。

¹⁶ E. Francis は、出版された目録についても一覧にしている。

<https://tsthypotheses.org/31>

¹⁷ 中国学者であり、1715 年より Collège royal のアラビア語講座の教授。同氏の生涯と業績については Leung の著作がある。Leung 2002.

https://books.google.co.jp/books/about/Catalogus_codicum_manuscriptorum_Bibliot.html?id=Joi4z_UuSIAC&redir_esc=y

Fr002: Janert no. 245.

これはBnF所蔵の写本目録の第一冊で、インド諸語の写本が含まれた最初の目録であり、インド諸語の写本目録としては、他のヨーロッパ諸国に先駆ける出版であった¹⁸。インド諸語写本 (Codices Indici) として南北インドの様々な文字で書かれた287点の写本が記録され、シャム文字写本 (Codices Siamenses) には7点のパーリ語写本と4点のシャム語写本が収録されている。シャム文字写本は、前述の寄贈写本の他、イエズス会士より送られたもので、Burnouf、Feer、Finot、Coedès等によって利用された。詳細については、Jacqueline Filliozatの論文を参照されたい¹⁹。

前述のPonsは6章構成のサンスクリット語文法を著述したが、約2世紀を経て、BnFにてJean Filliozatによりその写本が発見された²⁰。この写本は、

¹⁸ 18世紀に刊行されたインド諸語写本目録は、ヴァチカンのBibliotheca Vaticana 所蔵写本の目録があり、1789年にインドのマラバルよりローマに戻った、クロアチア出身のPaulinus a Sancto Bartholomaeo (正式名 Johann Philipp Vesdin/Wesdin 1748-1806)の編纂により1792-1793年に出版された。Fr002: Janert no. 286, 287.

No. 286: https://archive.org/details/bub_gb_BB_btqsM2MwC/page/n5.

No. 287: <https://archive.org/details/museiborgianive00bartgoog/page/n4>.

このコレクションにはパーリ語仏典写本が含まれ、詳細が報告されている。Filliozat, Jacqueline 2000. 因みに、Adelung と Gildemeister の書目も参照したが、1739年を遡って刊行されたインド諸語写本目録は見当たらない。Adelung 1837, Gildemeister 1847.

¹⁹ Filliozat, Jacqueline 2009 (French version), 2013 (English version)

²⁰ Filliozat, Jean 1937. 1814年に Collège de France の初代サンスクリット語・文学講座 (Langue et littérature sanscrites) の教授に就任した Antoine-Léonard de Chézy (1773-1832) や 1802年夏より 1804年夏までの2カ年パリに逗留していたドイツの Friedrich Schlegel (1772-1829) も Pons の文法書を利用してサンスクリット語を学習した。Muller, 1985, p. 135. Schlegel はパリにて後述の Alexander Hamilton を師としてサンスクリット語を研究する機会にも恵まれた。Rocher, Rosane 1968, p. 44. この文法書と同様に 20世紀以降に発見された、ドイツの Heinrich Roth (1620-1668

Pierre-Sylvain Filliozatにより復刻出版され²¹、'Archives et manuscrits'でも閲覧できる²²。

インド在住のイエズス会士によるサンスクリット語研究への貢献という観点から、1784年にAsiatic Society of Bengal (ベンガル・アジア協会)²³を創立したWilliam Jones (1746-1794)に先行して、サンスクリット語とヨーロッパの言語との関係性を指摘していたGaston-Laurent Coeurdoux (Bourges 1691-1779 Pondichéry)²⁴の業績も看過できない²⁵。

Agra) 著述の文法書については Camps & Muller 1988、Johann Ernst Hanxleden (1681-1732) の文法書については Hal & Vielle 2013 を参照。前出の Paulinus a Sancto Bartholomaeo も 1790 年に文法書を出版している。Rocher, Ludo 1977.

²¹ Filliozat, Pierre-Sylvain 2020.

²² Coté: Sanscrit 551. <https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/ark:/12148/cc972818>.

²³ 19 世紀前半には、欧米諸国にもアジア協会が設立されている。フランスの Société Asiatique は 1822 年、イギリスの Royal Asiatic Society は 1823 年、アメリカの American Oriental Society は 1842 年、ドイツの Deutsche Morgenländische Gesellschaft は 1845 年の創立である。アジア協会ではないが、ロシアの Asiatic Museum (Aziatskii muzei 現在の東洋写本研究所) は 1818 年に設立された。オランダは、植民地のバタビア (現在のジャカルタ) に 1778 年 Koninklijk Bataviaasch Genootschap van Kunsten en Wetenschappen (Royal Batavian Society of Arts and Sciences) を設立し、1962 年まで活動した。所蔵品は、インドネシア国立博物館に収蔵されている。

²⁴ Sommervogel 1891, t. 2, col. 1269-1270.

²⁵ Coeurdoux も Pons の文法書を利用してサンスクリット語を学習した一人であり、サンスクリット語とラテン語、ギリシャ語との類似性を示した 3 種のリストを作成し、語彙や数字の親縁性を指摘した文書を 1767 年に完成し、パリに送ったが、Anquetil-Duperron により出版されたのは Anquetil 没後の 1808 年であった。Max Müller 1885, p. 176-190, Windisch 1920, p. 233, La Vallée Poussin 1924, p. 3-6, Rocher, Rosane 2001, p. 1158, Godfrey 1967, Arlotto 1969, Muller 1986. この文書は Manfred Mayrhofer (1926-2011) により復刻出版されている。Mayrhofer 1983. 管見では、近年の日本学者で、この Coeurdoux 文書に言及するのは印欧語比較言語学の神山孝夫である。同氏は「もしこれがすぐに公刊されていたならば、印欧語比較言語学の開祖の榮譽は後述のジョウンズ (§24ff.) ではなくケルドゥーのものだったと考えられる。(中略) 当時のフランスは政情不安の中にあつて、改革の機運が高まることを恐れる当時のアカデミー執行部はこの画期的な報告の公表を躊躇した。」と記す。Kamiyama (神山) 2006, p. 40-41. Sylvia Murr (1947-

イエズス会士以外にも写本収集に貢献した人物がいる。19世紀初頭にウパニシャッドのペルシャ語訳『ウブネカット』(Oupnekhat)をラテン語に重訳出版し²⁶、ヨーロッパに初めてウパニシャッドを紹介したことで著名な Abraham-Hyacinthe Anquetil-Duperron (1731-1805)の業績も見過ごせない²⁷。Anquetil-Duperronは1754年²⁸、単身でインドに写本収集に赴き、将来したサンスクリット語、パフラヴィー語、ペルシャ語、アラビア語等180点の写本を1762年にBnFへ寄贈した²⁹。

インド諸語写本の収集により、BnFはヨーロッパにおけるインド学の一拠点として多くの学者が集う場となった。

サンスクリット語写本の調査を目的として1802年よりパリに滞留中のスコットランド人 Alexander Hamilton (1762-1824)³⁰とBnF東洋語写本部の主任司書 Louis-Mathieu Langlès (1763-1824)³¹によりBnF所蔵サンスクリッ

2002)は、Coeurdouxの南インドの風俗習慣、カーストに関する未公表文書を編纂している。Murr 1987. 同様にインドの薬草に関する未公表文書については Arion Roşu (1924-2007)が翻刻出版している。Roşu 1993.

²⁶ Anquetil-Duperron 1801-1802.

²⁷ Anquetilは、自ら収集した写本を利用して、1771年に"Zend-Avesta"のフランス語訳を出版した。アヴェスターを初めてヨーロッパに紹介したのもAnquetilである。Anquetil-Duperron 1771.

²⁸ Anquetil-Duperron 1997.

²⁹ Jean Filliozat: Fr 030, p. vii.

³⁰ Hamiltonは、当初インド・ベンガル軍の士官であったが、1790年には退役している。在印中に Asiatic Society of Bengalの会員となった。フランスより帰国後の1806年、Hertford CastleのEast India Company Collegeにてヨーロッパで初めてサンスクリット語の教授となった。Hamiltonについては、Rocherの著作がある。Rocher, Rosane 1968. イギリスにおけるサンスクリット語講座は、1832年OxfordにBoden講座が開設されたのが最初で、初代教授には1811年からAsiatic Society of Bengalの書記を務めていたHorace Hayman Wilson (1786-1860)が就任した。Rocher, Rosane 2001, p. 1163.

³¹ Langlèsは1795年にÉcole spécial des langues orientales (東洋言語特別学院)を創設し、初代学長(Président: 1795-1824)となり、ペルシャ語を教授した。Labrousse 1995, p. 74-78. 現在の名称は、Institut national des langues et civilisation orientales、略称

ト語写本目録が 1807 年に出版された。

Fr014.

Alexandre Hamilton et L. Langès: Catalogue des manuscrits samskrits de la Bibliothèque impériale: avec des notices du contenu de la plupart des ouvrages, etc. Paris: Imprimerie bibliographique, 1807. 118 p.

Cote: Sanscrit 1782.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b10536324s/fl.image>

<http://archive.org/details/cataloguedesman00unkngoog/page/n10/mode/1up?view=theater>

Fr002: Janert no. 246.

この目録では、写本の記述言語と文字による分類方式が採られた。49 点のデーヴァ・ナーガリー文字写本、179 点のベンガル文字写本と若干のベンガル語写本が収録されている。英語で執筆した Hamilton の草稿³²を Langlès がフランス語訳し、若干の注釈を補足した。仏典は含まれていない。

近代仏教学の祖と称される Eugène Burnouf (1801-1852)³³は、BnF 所蔵のパーリ語写本を利用して、Christian Lassen (1800-1876)³⁴とともに『パーリ語試論』を 1826 年に刊行し、翌 1827 年に単独で補遺を出版している³⁵。Burnouf は 1829 年にパリの Société Asiatique (アジア協会) の例会にて 1825 年にポンディシェリーに派遣された植物学者、Charles Bélanger (1805-

INALCO、Langues O'とも呼称される。

³² Catalogue of books in the Sanscrita language and Devanagari character in the National Library of France. BnF 保存資料。

³³ Burnouf は、ヨーロッパを襲ったコレラに罹患し逝去した Chézy の後継として 1832 年に Collège de France 第 2 代サンスクリット語・文学講座の教授に就任した。

³⁴ Lassen はノルウェーに生まれ、ボン大学の August Wilhelm von Schlegel (1767-1845) に師事、パリ留学中に Burnouf と知己を得た。Stache-Rosen 1990, p. 17.

³⁵ Burnouf & Lassen 1826, Burnouf 1827.

1881)³⁶がパリへ将来したパーリ語写本を含む 23 点のビルマ文字写本について報告している³⁷。BnF はこのコレクションを 1831 年に受入れた³⁸。

ネパール・カトマンドゥ在住のイギリスの外交官であり、仏教学者、博物学者でもあった Brian Houghton Hodgson (1800-1894)³⁹は、1824 年にネパールにて収集した 144 点の仏典を含む 423 点のサンスクリット語写本を 1827 年から 1845 年にかけてインドとヨーロッパの図書館と研究機関、そして Burnouf に送った。スコットランド出身で、1862 年インドに高級官僚として赴任した William Wilson Hunter (1840-1900) は、Hodgson 収集サンスクリット語写本の送付先で編纂された目録を再編集し、タイトルリスト⁴⁰と索引を作成して 1881 年に小冊子を出版した。

Fr015.

William Wilson Hunter: Catalogue of Sanskrit manuscripts collected in Nepal, and presented to various libraries and learned societies by Brian Houghton Hodgson. [London]: Trübner, 1881. 27 p.

https://books.google.co.jp/books/about/Catalogue_of_Sanskrit_manuscripts_collec.html?id=qr4IAAAAQAAJ&redir_esc=y

(BSBS B1.2.1.15.001, Lib.R180.321/HO)

Hunter は序文で写本送付の概要を示している。写本の数量については、1827 年カルカッタへ 70 点、ロンドンの Royal Asiatic Society (王立アジア協

³⁶ https://data.bnf.fr/12562973/charles_belanger/

³⁷ Burnouf 1829.

³⁸ Feer 1899, p. 67.

³⁹ Hodgson は 1818 年に渡印、1820-1843 年までカトマンドゥに在住、退職により 1844 年の早い時期に一旦イギリスに帰国、翌年再び渡印、ダーズリンに 1858 年まで在住し研究を続けた。詳細は、Hunter: Fr016, Waterhouse 2004 を参照。

⁴⁰ Hunter は、F. Max Müller, E. B. Cowell, S. Bendall, B. Nanjio (南條文雄) の協力を得てタイトルリストを編集した。Fr015, p. 4.

会)に 79 点、India Office Library (インド省図書館)⁴¹に 30 点、1837 年に Bodleian Library, Oxford (オックスフォード大学ボドリアン図書館)⁴²に 7 点、フランスへは、Burnouf に 59 点⁴³、Société Asiatique のために書写された 64 点を含めて計 146 点と記述されている。ここでは言及されていないが、Société Asiatique には 1837 年に 2 回送付され、64 点は 2 回目の数量であるから、1 回目の送付分は差し引き 23 点となる。64 点が記載された目録は、Hodgson が 1836 年 9 月 20 日に作成したもので、1837 年 7 月 14 日の Société Asiatique 評議会に提出された。この 64 点の目録で Nos. 1-4: "Rakcha bhagavati" と記載されたテキストは "Śatasāhasrikā prajñāpāramitā" であり⁴⁴、1 写本を 4 部に分けているので、タイトル数としては 61 点となる。

さらに、フランス所蔵分については、直近の 1880 年にイギリスのサンスクリット語学者 Cecil Bendall (1856-1906) がパリにおける Hodgson コレクションの所蔵調査をした結果に基づく写本数も記載され、Société Asiatique の所蔵数 23 点、元来 Société Asiatique へ送られ、1840 年に BnF へ移管された写本 58 点、Burnouf コレクション 60 点であり、フランスにおける写本の総数は 141 点と表記され、上記の数量とは異なる。

Hodgson の友人でもあった Hunter は、Hodgson 逝去後の 1896 年に同氏の伝記を著述し、その補遺 (Appendix A) として上記と同様のタイトルリストと索引、そして新たに Hodgson 作成の Société Asiatique に寄贈した初

⁴¹ この 30 点の写本は Hodgson collection として登録され、1864 年に送られた Hodgson 収集 131 点の写本は、東洋・西洋写本の一般コレクションとして登録された。Hunter: Fr016, p. 338, Sutton 1968, p. 39.

⁴² Winternitz 1905, p. 258.

⁴³ この数量は Burnouf の蔵書の競売目録に基づいている。送付、あるいは受領の年次が判明しているのは 1835-1837、1841 年である。Fr018, Manuscrits nos. 73-131.

⁴⁴ Filliozat, Jean 1945, p. 2, Fr030, nos. 116-131.

回分の写本リスト⁴⁵を追加して出版した。

Fr016.

William Wilson Hunter: Life of Brian Houghton Hodgson, British resident at the court of Nepal, member of the Institute of France: fellow of the Royal Society, a vice-president of the Royal Asiatic Society, etc. London: John Murray, 1896. ix, 390 p., [7] leaves of plates.

Appendix A, p. 337-356.

<https://archive.org/details/lifeofbrianhough00hunt>

Review: Léon Feer in JA, 11 (1898), 539-542.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k3062228m/f562.item>

(BSBS B1.2.16.001 & M1.24.011(1), Lib.289.3/HU)

この序文では、*Société Asiatique* に送られた 1 回目の写本数は Hodgson のリストに基づき 24 点⁴⁶、2 回目送付分 64 (61 タイトル) 点、Burnouf への送付分 59 点とカウントされ、Bendall の調査報告ではなく、各目録通りの写本数となっているが、その理由は説明されていない⁴⁷。Hodgson による写本送付から半世紀以上を経過したパリにおける Hodgson コレクションの所蔵状況は、目録とは若干異なる実態があったが、Hodgson の伝記という著作物の性質上、Hodgson の業績を正確に示すために、当初の目録による写本数に改めた、と推測する。

Hodgson 収集 144 点の仏典リストは、次の論文に掲載されている。

Fr017.

⁴⁵ これは 1835 年 11 月に Hodgson が作成した手書きリストで、同月 25 日付の Burnouf 宛書簡に記載された 24 点の写本リストの原本である。1894 年に Hodgson の寡婦により発見された。

⁴⁶ 24 点中、No. 24: *Stotra nevari* は欠本 (Manque) と記載されている。Filliozat, Jean 1945, p. 50.

⁴⁷ Hunter は、本文でも Hodgson がパリへ送付した写本は 147 点と記述するのみである。Fr016, p. 267.

Brian H. Hodgson: Sketch of Buddhism, derived from the Bauddha scriptures of Nepál.
In: *TRAS*, 2 (1828), 222 and appendix v, p. lxxvii.

Reprinted in the author's *Essays on the languages, literature and religion of Nepal and Tibet*. Amsterdam: Philo Press, 1972, p. 35-65.

List of Sanskrit Bauddha works, p. 36-39.

First published in collected form Serampore 1841, Calcutta 1857; reprinted with corrections and additions, London 1874.

<https://books.google.ad/books?id=AtMuAAAAYAAJ>

(BSBS M1.24.011, Lib.222.91/HO)

イギリスのネパールにおける写本収集は、Hodgson 以降も 1866 年から 1876 年までカトマンドウの British Residency の外科医として駐在していた Daniel Wright (1833-1902)、そして 1880 年代の Bendall へと継承された。

Burnouf の蔵書は、逝去した 2 年後の 1854 年 12 月に競売にかけられたが、サンスクリット語、パーリ語等のインド諸語写本は、Burnouf の寡婦が BnF に一括売却したことで散逸を免れた。BnF にてサンスクリット語写本は Burnouf コレクション (Fonds Burnouf) として所蔵されている。

以下がその競売目録であり、サンスクリット語仏典写本は 59 点が確認できる。

Fr018.

Catalogue des livres, imprimés et manuscrits, composant la Bibliothèque de feu M. Eugène Burnouf. Paris, 1854. viii, 353 p.

p. 322-352: 124 Sanskrit manuscripts (Manuscrits bouddhiques népalais, p. 330-336), 23 Pāli manuscripts and 62 other Indian language manuscripts.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k5804580x.texteImage>.

(BSBS M1.10.009(9)) Fr002: Janert no. 248.

また、Burnouf が遺した文書類も 1886 年 BnF に所蔵され、Léon Feer に

より解説付きの目録が出版された⁴⁸。

Burnouf の著作とサンスクリット語写本収集に纏わる Burnouf の Hodgson 宛の書簡も詳細に調査し、同氏の法華経研究とその学史的背景を考察した湯山明の著作が出版されている⁴⁹。

パリにて Burnouf の薫陶を受け、1859 年から 1864 年までフランスのセイロン領事として赴任した Paul Grimblot (1817-1870) が収集したシンハラ文字写本を主とするパーリ語写本 87 点を BnF は 1866 年に受入れた⁵⁰。Grimblot は、これらの写本を自ら研究し、逝去後に遺稿が出版されている⁵¹。また、セイロンからドイツの Hermann Brockhaus (1806-1877)⁵²に宛てたパーリ語文献に関する書簡も公表された⁵³。Grimblot がパーリ語写本をローマ字転写した原稿とパーリ語・フランス語単語カードは、Institut Catholique de Paris (パリ・カトリック学院)の図書館に保存されている⁵⁴。

Grimblot 収集写本については、Jules Barthélemy Saint-Hilaire (1805-1895) がテキストの内容を報告し⁵⁵、3種の目録 Pāli nos. 712, 735, 736 が編纂されて BnF に保存されている⁵⁶。

⁴⁸ Feer 1899.

⁴⁹ Yuyama (湯山) 2000. 本書には先行する日本語の著作もある。Yuyama (湯山) 1994.

⁵⁰ Lee-Fung-Kai: Fr009, p. 53.

⁵¹ Grimblot 1871, 1876. 1871 年の著作については、Grimblot 校訂のパーリ語テキストに加え、Feer が序文、テキストの翻訳、注記等を付して出版された。

⁵² Brockhaus は、Deutsche Morgenländische Gesellschaft 創設者の一人であり (Preissler 1995, p. 5-6)、1853年より1865年までZDMGの編集者であった。

⁵³ ZDMG, 15 (1861), p. 141-143; 16 (1862), p. 752-755; 18 (1864), p. 305-308.

<http://menadoc.bibliothek.uni-halle.de/dmg/periodical/structure/12415>.

<http://menadoc.bibliothek.uni-halle.de/dmg/periodical/structure/13279>.

<http://menadoc.bibliothek.uni-halle.de/dmg/periodical/structure/14993>.

⁵⁴ Petit: Fr005, p. 35-36. Institut Catholique de Paris には、サンスクリット語、パーリ語、チベット語、漢語の写本が所蔵されていることが Website の記述により知られる。 <https://bibliotheques.icp.fr/rechercher/collections-patrimoniales/manuscrits>

⁵⁵ Barthélemy Saint-Hilaire 1866.

⁵⁶ Pāli 712: Catalogue des manuscrits Pālis provenant de la collection Grimblot, par

Grimblot と同時期の 1860 年末から 1864 年 3 月まで、セイロンにて総督の私的秘書や政庁の文官 (Ceylon Civil Service) として滞在していたのがイギリスのパリー語学者 Robert Caesar Childers (1838-1876) である⁵⁷。Childers は、『パリー語辞典』(1875 年刊) を編纂し名声を博したが⁵⁸、セイロンにて Grimblot と知遇を得たことにより、初めて仏教文献の重要性を知り関心を寄せたこと、帰国後 Reinhold Rost (Eisenberg 1822-1896 Canterbury) から本格的にパリー語を研究するよう勧められたこと等を同辞典の巻末にて回想している⁵⁹。Childers は 38 歳を一期として鬼籍に入ったが、同氏のパリー語研究は Grimblot と Rost との邂逅が機縁となった。

BnF が所蔵するパリー語写本に特に関心を示したのは、ロシア・インド学派の創始者 Ivan Pavlovich Minaev (1840-1890)⁶⁰である。同氏は 1863 年

Zotenberg. Non daté, vers 1866.

<https://archivesetmanuscris.bnf.fr/ark:/12148/cc990677>.

Pāli 735: Catalogue des manuscrits pâlis de la Bibliothèque nationale, collections Grimblot et Burnouf. Non daté, fin XIXe siècle.

<https://archivesetmanuscris.bnf.fr/ark:/12148/cc124996w>

Pāli 736: Catalogue des manuscrits pâlis de la collection Grimblot, par Paul Grimblot. Non daté, avant 1866.

<https://archivesetmanuscris.bnf.fr/ark:/12148/cc1249975>

⁵⁷ Childers の後継として 1864 年に文官となったのは、後に Pali Text Society (パリー語聖典協会) を創立した若き日の Thomas William Rhys Davids (1843-1922) で、1872 年までセイロンに滞在した。Guruge 1984, p. cxxii。Childers は、セイロンより新たな写本を取り寄せて研究に利用したが、この労を執ったのは Rhys Davids であった。両者の交友関係については、Childers の文書と Childers から Rhys Davids に宛てた書簡を題材とした Gomall の論文がある。Gomall 2015。写本送付の要請については p. 478-479 参照。

⁵⁸ Watanabe (渡邊), 1918, p. 34.

⁵⁹ Childers, 1875, p. 623。Childers は、本辞典にて Rost への献辞を捧げている。Ananda W. P. Guruge は、Childers のパリー語研究に言及する中で、この回想文を引用している。Guruge 1984, p. cxv-cxvi。およそ 20 年の歳月を要した Otto Böhtlingk と Rudolf Roth 編纂の "Sanskrit-Wörterbuch" も 1875 年に完成している。

⁶⁰ Minaev について、本稿では Bongard-Levin & Vigasin, 1984, p. 82-97; Ivan Minayev: founder of Russian Indology の記述に基づく。

から 1868 年までドイツ、イギリス、フランスに遊学していたが、パリに長く逗留し、BnF が所蔵する、フランス出身の宣教師 Paul Ambroise Bigandet (1813-1894) のコレクションを目録編纂した⁶¹。このコレクションは、1866 年にビルマ王より下賜されたビルマ文字版パーリ語三蔵写本である。Minaev は Grimblot 収集写本⁶²とサンクトペテルブルクのアジア博物館所蔵写本⁶³も利用して律蔵の"Pātimokka"の校訂本とロシア語訳を刊行した⁶⁴。Grimblot 収集写本を有効利用した最初の学者である⁶⁵。本書は、ロシア・インド学における最初の批判的テキスト校訂出版であり、後に Minaev の弟子 Sergey Fyodorovich Oldenburg (1863-1934) を中心に国際プロジェクトとして出版された"Bibliotheca Buddhica"⁶⁶刊行の先駆けとなった⁶⁷。

パーリ語写本については、1882 年 Léon Feer により分類目録が出版された。約 150 タイトルを数える。

Fr019.

Léon Feer: List of Pāli MSS. in the Bibliothèque nationale, Paris. In: JPTS, 1882, 32-37.

<https://palitextsociety.org/journals-of-the-pali-text-society-free-downloads/>

(BSBSC1.2.6.1.002)Fr002: Janert no. 250.

分類方式は、I. Piṭaka Books (1. Vinaya, 2. Sutta, 3. Abhidhamma), II. Extra-Canonical Works, III. Grammars, etc. であり、三蔵を律、経、論に分ける等、

⁶¹ Catalogue des mss. pālis par Minaïef (copié par Stanislas Guyart et Féer, collection Bigandet). Notices détaillées, 737, 144 fol. BnF 保存資料。

⁶² Grimblot nos. 1, 3, 11, 13. Minaev 1869, p. iii-iv.

⁶³ Mironov 1914, no. 448-449, Posova & Chizhikova, 1999, no. 84, 321.

⁶⁴ Minaev, 1869.

⁶⁵ de Jong 1997, p. 23.

⁶⁶ 本叢書は、1897 年より 1937 年まで刊行された 30 点が広く知られ、名著普及会が再版の際に『仏教文庫文献解題』(The introduction to the Bibliotheca Buddhica) を 1978 年に刊行した。現在、第 40 巻 (2004 年) まで出版されている。第 30 巻までは、St. Petersburg の Institute of Oriental Manuscripts の Website にてダウンロードできる。 <http://www.orientalstudies.ru/eng/index.php?option=content&task=view&id=3456>.

⁶⁷ Bongard-Levin & Vigasin, 1984, p. 95.

仏典目録として合理的な分類となっている。

Feer は、BnF 所蔵のビルマ文字写本とクメール文字写本についても報告している。54 点のビルマ文字写本の内訳は、貝葉写本 43 点と紙写本 11 点である。クメール文字写本は、元々のコレクションと軍医であった Alexandre Hennecart が収集し、1877 年に遺族より寄贈された写本を加えて計 18 点、Hennecart の手稿本 17 点であり、それぞれ一覧にされている。

Fr020.

Léon Feer: Notice des manuscrits birmanes et des manuscrits cambodgiens de la Bibliothèque nationale de Paris. In: Mémoires de la Société académique indo-chinoise de France, 1877-1878, 1 (1879), 189-197.

Notice des manuscrits cambodgiens, 194-197.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k4156746?rk=21459;2>

(BSBS C1.2.6.1.002)

BnF におけるパーリ語写本を含むビルマ文字写本の収集は、18 世紀末から 19 世紀末に至る 1 世紀の間に数量は 80 点を超えていた⁶⁸。

シヤム語写本については、1858 年に編纂された内部資料に対する下記の注記目録が Société académique indo-chinoise de France (フランス・インドシナ学会) 会長の Edmé-Casimir de Croizier (1845-1921) により出版された。62 点の写本中、仏教関係は 11 点である。

Fr021.

Edmé-Casimir de Croizier: Notice des manuscrits siamois de la Bibliothèque nationale. In: Mémoires de la Société académique indo-chinoise de France, 1877-1878, 1 (1879), 213-269.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k4156746?rk=21459;2>

(BSBS C1.2.6.1.003)

⁶⁸ "Fr001, p. 73.

Fr001 には未収録であるが、同氏は 1887 年に増補改訂版を出版した。

Fr022.

Edmé-Casimir de Croizier: Notice des manuscrits siamois de la Bibliothèque nationale. Paris: Challamel, 1887. 84 p.

https://books.google.co.jp/books/about/Notice_des_manuscrits_siamois_de_la_Bibl.html?id=O_ktAAAAYAAJ&redir_esc=y

(BSBS C1.2.6.1.003, Lib.V929.36/CR)

探検家の Jules Léon Dutreuil de Rhins (1846-1894) と École spécial des langues orientales の Joseph Ferdinando Grenard (1866-1945)⁶⁹ は、1891 年から 1895 年まで中央アジア探検を行い⁷⁰、1892 年コータンにて Kharoṣṭhī 文字で筆写された卷子本型の権記写本を数点購入した。de Rhins は不運にも探検中に殺害されたが、Grenard は生き延びて帰国し、Émile Senart (1847-1928)⁷¹ の手を経て BnF がこの写本を受入れた。Kharoṣṭhī 写本群は、ガンダーラ語 (Gāndhārī) で書かれているためサンスクリット語資料コレクション (Fonds Sanscrit) ではなく、パーリ語資料コレクション (Fonds Pāli) として登録されている。Pāli no. 715 の "Dhammapada (Fragments de)" である⁷²。写本の詳細は Senart の論文を参照されたい⁷³。この写本の片割れをロシアのカシュガル総領事 N. F. Petrovsky (1837-1908) が購入し、その他 100 点を超える写本断片とともに 1892-1893 年にサンクトペテルブルクへ送り、Oldenburg の下

⁶⁹ Wikipedia 参照。 https://fr.wikipedia.org/wiki/Fernand_Grenard

⁷⁰ Serre 2008. この探検の記録は de Rhins の逝去後に出版された。de Rhins 1897-1898.

⁷¹ Senart は、1882 年より Academie des inscriptions et belles-lettres (碑文・文芸アカデミー) 会員、その他数か国の学士院会員、1890 年アジア協会の副会長、1908 年より 1928 年まで会長、Musée Guimet の理事、総裁等の要職を歴任した。Yamaguchi (山口) 1954, p. 38-48.

⁷² <https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/ark:/12148/cc99070r>

⁷³ Senart 1898.

に届いた⁷⁴。1897年パリにて開催された第11回国際東洋学会議 (XI^e congrès international des orientalistes) に於いて Senart がこのパリの断片について報告したことが端緒となり、同会議に出席していた Oldenburg は Senart にサンクトペテルブルク写本の一部を複製して回覧した。両者は両断片が同一写本からの切り離しであることを確認し、二人の共同研究・出版を検討したが実現しなかった⁷⁵。1962年、John Brough (1917-1984) はパリとサンクトペテルブルクの両写本を利用して校訂本を出版し、「序論」にて両写本の発見と研究史について詳述している⁷⁶。

18世紀から19世紀にかけて BnF には相当数の東洋語写本が収蔵されたため、東洋語写本の『簡易目録』 (catalogue sommaire) の編纂が計画された。詳細な目録編纂には相当の時間を要するため、写本のタイトルを公表することにより、コレクションの概要を提示することが『簡易目録』編纂の目的であった⁷⁷。

サンスクリット語とパーリ語写本については、École spécial des langues orientales のマレー語教授 Antoine Cabaton (1863-1942: 在職 1906-1933)⁷⁸により下記の目録が編纂された。

Fr023.

Antoine Cabaton: Catalogue sommaire des manuscrits sanscrits et pâlis, 2 vols. Paris: Ernest Leroux, 1907-1908.

Fasc. 1: Sanskrit manuscrits. Nos. 1-1102.

⁷⁴ Bongard-Levin & Vigasin, 1984, p. 118.

⁷⁵ Brough 1962, p. 3, Bongard-Levin, Landinois, Vigsin, 2002a, p. 28, Bongard-Levin, Landinois, et Vigasin 2002b, p. 715. Senart から Oldenburg 宛の13通の書簡が翻刻出版され、1897年9月24日より1898年4月30日までの書簡8通にこの共同研究・出版について言及されている。Bongard-Levin, Landinois, Vigsin, 2002a, p. 225-233.

⁷⁶ Brough 1962.

⁷⁷ Jean Filliozat: Fr030, p. xv.

⁷⁸ Labrousse 1995, p. 237-239.

Collection Eugène Burnouf: éditions imprimées, lithographiées ou autographiées dans l'Inde, p. 179-189.

Fasc. 2: Pāli manuscripts. Nos. 1-719.

Papiers d'Eugène Burnouf (1801-1852), Papiers de Léon Feer (1830-1902), p. 154-177.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k2556966>.

(BSBS C1.2.6.1.004, Lib. R929.8100/CA) Fr002: Janert no. 252

第1冊のサンسكريット語写本目録については No. 1102まで収録され、仏典はNos. 1-165に掲載されている。書誌記述は、写本のタイトル、筆写年代、文字と紙の種類、形状、旧写本番号等であり、簡易な内容となっている。

'Archives et manuscrits'では、その後の増加分 (Addenda, Collection P. Cordier, Collection E. Senart, Nouvelle acquisition) を含めて No. 1878まで参照でき、全体を検証したわけではないが、仏典写本のデジタル化がかなり進捗しているようで、相当数を閲覧できる。パーリ語写本については、No. 885まで参照でき、PTS本をはじめ校訂本に当該写本が使用されている場合は、その情報も掲載されている⁷⁹。

Jacqueline Lee-Fung-Kai⁸⁰は、第2冊のパーリ語写本目録について、Cabaton はパーリ学の専門家ではなかったため、Léon Feerの詳細な目録を参照するなど先学の記述を拠り所として編纂したが、テキストの目次や概要を記載しなかったため、研究者にとっては簡略すぎる目録となってしまう、Feerの傑出した記述が覆い隠されてしまった、と指摘する⁸⁰。同女史の記述によると、Feer作成の大部な未出版目録における写本の書誌記述は、タイトルのラテン文字と原語による表記、テキストの言語、構成と内容、パーリ三蔵にける所在位置、翻訳の有無、参考文献、コロフォンの転記、

⁷⁹ Website のアドレスは、注9を参照されたい。

⁸⁰ Lee-Fung-Kai: Fr009, p. 60.

来歴、筆写年代等であり、目録の模範を示す内容と評している⁸¹。
'Archives et manuscrits'にてFeer目録の書誌と概要が知られる⁸²。Cabaton『簡易目録』のBumouf旧蔵写本については、先の競売目録 (Fr018) の参照番号が記載されている。Grimblot 収集写本にも固有の番号が付与されているが、これはBnF内部資料の目録番号であろう⁸³。

Jacqueline Filliozatは、Cabaton『簡易目録』刊行後にBnFが収集したパーリ語写本について報告している。

Fr024.

Jacqueline Filliozat: État des additions au fonds pâli de la Bibliothèque nationale. In: JA, 271 (1983), 187-190.

Cotés : Pâli 720-879.

(BSBS C12.6.1.005)

内訳は、Musée Guimet (ギメ美術館) 旧蔵で1945年移管の69点、École spécial des langues orientales旧蔵で1938年移管の32点、他のコレクションに誤って収蔵されていた27点、Senart旧蔵分10点、Bigandet 等個人旧蔵分、新たな購入・寄贈分である。

Cabatonはサンスクリット語、パーリ語以外のインド諸語と東南アジア語写本の『簡易目録』も編纂した。

Fr025.

Antoine Cabaton: Catalogue sommaire des manuscrits indiens, indo-chinois & malayo-

⁸¹ Lee-Fung-Kaï: Fr009, p. 59.

⁸² Pali 738: Catalogue du fonds pâli, I: no. 1-300, par Léon Feer. Non daté, vers 1865.
<https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/ark:/12148/cc124999q>

Pali 739: Catalogue du fonds pâli, II: no. 301-707 et Catalogue descriptif des manuscrits birmans, par Léon Feer. Non daté, vers 1865.

<https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/ark:/12148/cc125000c>

Pali 740: Catalogue du fonds pâli, par Léon Feer. 1871.

<https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/ark:/12148/cc125001n>

⁸³ BnF 内部資料については、注 56 を参照。

polynésiens. Paris: Ernest Leroux, 1912. ii, 319 p.

I: 638-889: Mss. Indiens, 890-936: Mss. Singhalais.

II: 1-78: Mss. Birmans, 72-209: Mss. Cambodgiens, 210-211: Mss. Chams, 212-240: Mss. Laotiens, 241-249: Mss. Lolos, 250-350: Mss. Siamois.

Addenda au Catalogue sommaire des manuscrits sanscrits, p. 271-274.

Collection Eugène Burnouf (suite et fin), p. 275-278.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k255694f.r=catalogue+manuscrits.langFR>

(BSBS C1.2.6.1.007, Lib. R029.135/CA) Fr002: Janert no. 253.

書誌記述は、写本の番号、タイトル、筆写年代、文字の種類等である。Cabaton 『簡易目録』 (Fr023) のサンスクリット語写本の追加分と Burnouf コレクションの続編も収録されている。

1950年代以降、各分野の専門家による詳細な目録の編纂が開始され、最初にクメール文字写本目録がクメール語の専門家 Au Chhieng (1908-1992) により出版された。

Fr026.

Au Chhieng: Catalogue du fonds khmer. Paris: Imprimerie nationale, 1953. xiii, 307 p.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b103297644/f9.image>.

(BSBS C1.2.6.1.008, Lib.R029.135/AU)

書誌記述は、写本番号とタイトル、コロフォンのローマ字転写、解題の他、来歴、旧コレクション名、旧写本番号 (Cabaton 『簡易目録』 番号) である。巻末に、タイトルと主題索引、新旧番号の対照表を付す。Cabaton 『簡易目録』 では 131 点であったが、その後の追加分を合わせ、350 点の写本の書誌情報が収録されている。

シンハラ文字写本目録は、École spécial des langues orientales 所属の Liyanaratne により出版された。

Fr027.

Jinadasa Liyanaratne: *Catalogue des manuscrits singhalais*. Paris: Bibliothèque nationale, 1983. 148 p., 4 p. of plate.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k255710g>

(BSBS C1.2.6.1.009, Lib.R929.8100/PA)

目録部の前に、写本の主題、筆写の世紀、年代等の索引、本目録と写本番号とのコンコーダンスがあり、書誌記述はタイトル、コロフォンのローマ字転写、参考文献等であり、巻末にタイトル索引と写本の写真版数点を付す。

Liyanaratne は、この目録未収録写本 5 点とパリの Musée de l'Homme (人類博物館) に所蔵されている 1 点、計 6 点の医学関係写本についても報告している⁸⁴。

シャンデルナゴルやポンディシェリー等で軍医として赴任していた、インド及びチベット医学文献研究のパイオニア、Palmyr Cordier (1871-1914) が主に 1898 年から 1902 年に収集した 297 点のサンスクリット語写本⁸⁵と 26 点のチベット語の写本・版本、6 点のベンガル語写本を 1932 年に BnF が受入れ、Jean Filliozat が下記のリストを出版した⁸⁶。

Fr028.

Jean Filliozat: *Liste des manuscrits de la collection Palmyr Cordier conservés à la Bibliothèque nationale*. In: JA, 224 (1934), 155-173.

<http://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k93324c/fl157.image>.

(BSBS D2.2.8.2.001) Fr002: Janert no. 254

⁸⁴ Liyanaratne 1991.

⁸⁵ Cordier 1903a. サンスクリット語写本については Archives et manuscrits: Collections Sanscrit 1147-1443 Collection P. Cordier を参照。
<https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/pageCollections.html?col=1>.

⁸⁶ Pierre-Sylvain Filliozat は、BnF と Société Asiatique が所蔵するサンスクリット語とベンガル語の Cordier コレクションの概要を報告している。Filliozat, Pierre-Sylvain 2014.

BnF は Émile Senart が収集したジャイナ教文献を主とし、パーリ語写本も含む約 300 点の写本を 1925 年に受入れ⁸⁷、Jean Filliozat が下記の目録を出版した。

Fr029.

Jean Filliozat: État des manuscrits de la collection Émile Senart. In: JA, 228 (1936), 127-143.

Manuscrits Pālis, p. 140-141.

(BSBS C1.2.6.1.006)Fr002: Janert no. 255.

ジャイナ教写本については、近年詳論が刊行されている⁸⁸。

Jean Filliozat はサンスクリット語写本目録の第 1 分冊を 1941 年に、第 2 分冊を 1970 年に出版した。

Fr030.

Jean Filliozat: Catalogue du fonds sanscrit. Paris: Adrien-Maisonneuve, 1941-1970.

Fasc. I (1941): Nos. 1-165.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k255707s/f3.image>.

Fasc. II (1970): Nos. 166-452.

(BSBS B1.2.1.6.1.002, Lib.R929.8100/FI) Fr002: Janert no. 256.

仏典が収録された第 1 分冊の概要を示すと、写本の形状、文字等の情報の他、コロフォンのローマ字転写、校訂本、翻訳に関する書誌情報、校訂本に当該写本が利用されているか否かの指示、同テキストの Bendall 目録写本番号⁸⁹、Mironov 目録写本番号⁹⁰、BnF が所蔵するチベット語大蔵

⁸⁷ サンスクリット語写本については、Archives et manuscrits: Collections Sanscrit 1444-1748 Collection E. Senart を参照。

<https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/pageCollections.html?col=1>.

⁸⁸ Petit & Balbir 2006-2007, Balbir 2017.

⁸⁹ Bendall 1883. ケンブリッジ大学図書館所蔵サンスクリット語写本目録。

⁹⁰ Mironov 1914. サンクトペテルブルクの Institute of Oriental Manuscripts, RAS 所蔵インド語写本目録。目録発行当時の機関名は、Asiatic Museum (Aziatskii muzei)。

経の北京版とナルタン版、Staatsbibliothek zu Berlin - Preußischer Kulturbesitz (ベルリン国立図書館 プロイセン文化財団 [運営]) が所蔵する北京系写本 Kanjur⁹¹の対応箇所、写本の来歴を明示し、巻末にタイトル索引を付して目録利用者に便宜を供している。

Filliozatは、本目録にてHodgson収集写本で1840年にSociété AsiatiqueからBnFに移管された写本については、'Prov.: Népal. Coll. Hodgson. Don Soc. As., 1840'と表記してSociété Asiatiqueからの寄贈 (don)であることを示し、59タイトルを認める⁹²。Burnouf所蔵写本でHodgson収集写本については、'Prov.: Népal. Coll. Hodgson-Burnouf'と記載し、Burnoufの蔵書の競売目録 (Fr018) の参照番号を併記する等、来歴についても配慮された目録である。

『アジア協会所蔵サンスクリット語・チベット語写本目録』(以下、『アジア協会目録』と略す。)⁹³もJean Filliozatにより編纂され、1945年に出版された。Filliozatは、その「序論」にてHodgsonからSociété Asiatiqueに送られた1回目と2回目送付写本の内、6点の写本がBurnoufの助言と配慮により交換されたに違いなく、1840年にBnFに移管されたことと記述するが、テキスト名については言及していない⁹⁴。『アジア協会目録』においても写本の来歴は明記され、1837年にHodgsonより寄贈された1回目送付分の24点の写本は'Prov.: Népal. - Don Hodgson, 1837'、2回目送付の64点からの受け入れ分は'Prov.: Népal. - Hodgson 1837'と記載されている。筆者がHodgson作成の24点と64点の目録、BnF目録 (Fr030)、『アジア協会目録』を比較検討した結果、1回目送付の24点からBnFへ移管された写本は、Aṣṭasāhasrikā prajñāpāramitā (no. 13), Kāraṇḍavyūha (no. 24), Gaṇḍavyūha (no. 41),

⁹¹ Beckh 1914. Beckh 目録では、律部が先頭に位置するが、この構成順序の誤りを Erik Haarh が訂正している。Haarh 1954. この写本 Kanjur は万暦版を基にした1680年筆写の Kanjur である。同様に1669年筆写の写本が台湾の故宫博物院に所蔵され、そのレプリカと影印本が同博物院より刊行されている。

⁹² 59点の内、No. 30の Ācāryakriyāsamuccaya は'Prov.: Népal. Coll. Hodgson. Don Soc. As.'と受入れ年次の記載がないが、Hodgson作成64点の目録の38番目に "Kriyasamutthchayantra" が収録されているので、年次の記載漏れであろう。

⁹³ Filliozat, Jean 1945.

⁹⁴ Filliozat, Jean 1945, p. 4-5.

Caityapungala (no. 42), Sarvatathāgatakāyavākcittarahasya - Guhyasamāja (no. 134), Samādhirāja (no. 146) の6点であり、2回目の64点の内、Société Asiatiqueに残された写本は、Divyāvādāna (Société Asiatique no. 5), Aśokāvādānamālā (同 no. 6), Bhadrakalpāvadāna (同 no. 7⁹⁵), Mahāvastu (同 no. 9), Sphuṭārthā Abhidharma-kośavyākhyā (同 no. 10) の5点が確認された。『アジア協会目録』で 'Prov.: Népal. - Don Hodgson 1837と記述されているNo. 8. Madhyamakavṛttiは、24点の目録のみならず64点の目録にも収録されていないため、関連するHodgsonの著作を調査したところ、Hodgsonは本テキストを"Vinaya Sūtra"と名付けていることが判明した⁹⁶。"Vinaya Sūtra"は、64点の目録の29番目に収録されているので、No. 8. Madhyamakavṛttiが6点目の写本であり、『アジア協会目録』における来歴の誤記と看做される。2回目送付64点の内、Société Asiatiqueに残された写本は、連番登録されたNos. 5-10であることが確認できた⁹⁷。

3. チベット語写本・版本

'Archives et manuscrits'の記述によると、1777年ロシアの元従軍医師からの寄贈資料が、BnFにおける最初のチベット語資料の受入れであった⁹⁸。

⁹⁵ Nos. 6-7は、1900年に Oldenburg に貸出のため欠本と記載されている。

⁹⁶ "Vinaya Sūtra, Treatise on Discipline. Author, Chandra Kīrti Achārya. It is equivalent to the Vyāsa Sūtra of the Brahmins." Hodgson 1874, pt. 1, p. 20. 元はカルカッタの Library of Fort William に送られ、Asiatic Society of Bengal に所蔵された同写本について、R. Mitra (1822-1891) は "A commentary on a work called Vinaya Sūtra. By Chandrakīrti Āchārya." と記す。Mitra 1882, p. 169. No. B 2. Bendall も Hodgson の記述を参照し、Madhyamaka-vṛtti (called Vinaya-Sūtra) と記述する。Bendall 1883, p. 114. Add.1483.

⁹⁷ Société Asiatique の Edmond Drouin (1838-1904) は Louis Finot (1864-1935) の協力を得て、1897年当時の Société Asiatique 所蔵の24点の写本リストを作成し、Hodgson 寄贈分の18点とその他6点の写本に分類し、テキスト名を列挙する。このリストは、当時の Société Asiatique の所蔵状況を知る上では参考になるが、『アジア協会目録』の情報に基づく限り、分類に誤りがあり、写本交換に関する正確な情報を提供していない。JA, IX (1897), p. 337-338.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k65294449/f153.image>.

⁹⁸ <https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/ark:/12148/cc43985>

1835年、インド・カルカッタの Asiatic Society of Bengal の書記、James Prinsep (1799-1840) よりナルタン版 Kanjur が Société Asiatique に送られたが、アカデミー会員 Jules Mohl (Stuttgart 1800-1876 Paris) の提案で同年9月7日 BnF に移管された⁹⁹。この Kanjur はカトマンドウの Hodgson が Société Asiatique 寄贈用として Asiatic Society of Bengal へ送った一具であった¹⁰⁰。

パリでの学業を終えた Paul Pelliot は 1899年11月にサイゴンに到着し、École française d'Extrême-Orient (フランス極東学院、以下"EFEO"と略す。)¹⁰¹ で活動を始めた。1901年、北京に出張した Pelliot は、北京版チベット語大蔵経 Kanjur と Tanjur 両部を入手した。この大蔵経入手は、フランス・インド学仏教学の碩学で、Pelliot の師でもあった Sylvain Lévi (1863-1935)¹⁰² の要請によるものであった¹⁰³。

1900年から1934年にかけて Lévi から Pelliot に送られた 29 通の書簡が、Musée Guimet に保存され、Roland Lardinois により翻刻出版されている¹⁰⁴。その内の 1900年5月5日付の書簡¹⁰⁵で、Lévi はチベット語大蔵経 Tanjur

⁹⁹ Société Asiatique 1922, p. 47-48, 50.

¹⁰⁰ Filliozat 1945, Introduction, p. 1-4.

¹⁰¹ 当時の名称は、Mission archéologique d'Indo-Chine で、1900年より EFEO と改称。本部もサイゴンからハノイに移された。

¹⁰² Lévi は 1894年から 1935年まで Collège de France のサンスクリット語・文学講座の教授。日仏会館初代館長 (1926-1928年) も務め、高楠順次郎 (1866-1945) とともに主監となり、Lévi と Édouard Chavannes (1865-1918) の薫陶を受けた Paul Demiéville (1894-1979) を編集長として、仏教百科事典『法寶義林』の編纂を開始した。『法寶義林』の歴史については、彌永信美の論文がある。Iyanaga (彌永) 2017. 『法寶義林』別冊の大正蔵目録の改訂版 (1978年刊) は、オンライン版が提供され (<https://tripitaka.l.u-tokyo.ac.jp/hbgn/>)、SAT 大正新脩大蔵経テキストデータベースとリンク付けされている。 (<https://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/>)

¹⁰³ Monnet 2013, p. 140.

¹⁰⁴ Lardinois 2013, p. 234-265.

¹⁰⁵ Lardinois 2013, p. 219-220, 234-236. Annexe I: Correspondence Sylvain Lévi - Paul Pelliot. Musée Guimet, Archives Paul Pelliot, Correspondences, 1. (Papiers Pelliot, musée Guimet, Pe1 C 1a, chemise 6). 1903年10月1日付の書簡においても Lévi が Tanjur の利用を心待ちにしている様子が窺える。 p. 237-238.

の入手を Pelliot に要請している。ロンドン、サンクトペテルブルク、ベルリンには Kanjur と Tanjur 両部具備されているのに対して、パリには Kanjur のみで Tanjur が備わっていないこと、アカデミー会員の Senart, Auguste Barth (1834-1916), Michel Bréal (1832-1915) の三氏に Tanjur 入手に関する話をしてあること、ベルギーでは Louis de La Vallée Poussin (1869-1938) の要請により Tanjur を購入したこと等が詳細に綴られている。Pelliot が 1901 年に入手した北京版チベット語大蔵経両部は、同年ハノイの EFEO に届き、1904 年に BnF に送られた¹⁰⁶。

Lévi の 1904 年以降の著作を一覧すると¹⁰⁷、同氏は 1907 年に梵文『大乘莊嚴經論』の校訂本、1911 年にそのフランス語訳を出版し¹⁰⁸、研究資料として北京版チベット語大蔵経 Tanjur 所収の当該テキスト¹⁰⁹を利用していることが知られる。Lévi はネパールに滞在した 1898 年 1 月、パタンにて現地のパンディットの友人が "Mahāyānasūtrāṃkāra" 写本を所有していることを知り交渉したが、所有者は写本を手放すことを拒否したため、パンディットが作成した写本の複製をパリに将来した¹¹⁰。Lévi の仏典研究の方法は、梵藏漢語資料の比較対照研究である¹¹¹。故に Lévi にとって

¹⁰⁶ Bibliothèque nationale 1979, p. 24, No. 36: B.N., Mss. Or., tibétain 1-332.

¹⁰⁷ Bibl. bouddh., 7-8, 1937, p. ix-xi, 1-64.

¹⁰⁸ Lévi 1907-1911. 本写本は、Collection Sylvain Lévi として Collège de France の Website にて閲覧できる。

https://salamandre.college-de-france.fr/archives-enligne/ead.html?id=FR075CDF_00IEI00SL&c=FR075CDF_00IEI00SL_de-9&qid=

なお、本写本については菅原泰典の論評がある。Sugawara (菅原) 1990, p. 331.

¹⁰⁹ 大谷目録 No. 5527.

¹¹⁰ Lévi 1907, p. i-ii.

¹¹¹ 1925 年 3 月より 1927 年 9 月までパリに留学し、Sylvain Lévi に師事した山口益 (1895-1976) は、「従つてレギ教授の原本並びにフランス譯の大乗莊嚴經論による榊博士の講述によって、始めて梵藏漢譯の三本の對照研究を以て遂行せらるる大乘佛教學典籍研究の黎明を得たのであった。」と Lévi の研究方法に言及し、続いて他の經論についても同様の趣旨を述べている。山口 (Yamaguchi) 1954, p. 50ff.

同テキストの研究にチベット語訳は必要不可欠な資料であり、それを主な契機として *Tanjur* の入手を *Pelliot* に要請した、と推察する。

この北京版 *Tanjur* については、前述の *Palmyr Cordier* により目録が編纂され、*BnF* 所蔵チベット語資料コレクション目録 (*catalogue du fonds tibétain*) の第 2 部と 3 部として出版された。

Fr031.

Palmyr Cordier: *Catalogue du fonds tibétain de la Bibliothèque nationale, ptie. 2-3: Index du bstan-hgyur (Tibétain 108-179), (Tibétain 180-332)*. Paris: Imprimerie nationale, 1909-1915. vii, 402; xi, 562 p.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b10329767g.image>.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b10329768x.image>.

Reprinted in New Delhi in 1984.

(BSBS D1.2.19.2.2.001, Lib.R180.321/CO)

本目録は、タイトル、著者、訳者、改訂者をサンスクリット語とチベット語で記し、それらに関するコロフォンをローマ字転写して、テキストの該当箇所を指示する。*Cordier* 目録の第 3 部 (*ptie. 3*) 序文の日付は 1914 年 7 月であるが、*Cordier* はドイツとの戦争で捕虜となり、一旦は生還したが、病に倒れ 9 月 5 日に逝去したため、序文の後に 1915 年 3 月付で追悼の辞が添えられている。第 1 部 (*Kanjur*) はその後も刊行されていない。*Cordier* が予定していたものの成し遂げられなかった索引を *École pratique des Hautes Études* (高等研究院) 所属の *Marcelle Lalou* (1890-1967) が編纂した。蔵・梵語のタイトル名、人名、地名の索引、補遺として副題とコロフォンの索引を付す。目次の最後に追加・訂正頁が存在することになっているが、筆者が利用した再販本に当該頁は印刷されていない。

Fr032.

Marcelle Lalou: *Répertoire du Tanjur d'après le Catalogue de P. Cordier*. Paris, 1933. viii,

239 p.

Reprinted in New Delhi in 1984.

(BSBS D1.2.19.2.2.002, Lib.R180.321/LA)

Cordier は、チベット語大蔵経 Tanjur に収録されている医学関係文献における梵蔵語の比較研究なども行っている¹¹²。

Lalou は、BnF 所蔵チベット語資料コレクション目録の第 4 部の第 1 冊として次の目録を出版した。

Fr033.

Marcelle Lalou: Catalogue du fonds tibétain de la Bibliothèque nationale, ptie. 4, 1: Les mdo-maṅ. Paris: Paul Geuthner, 1931. 110 p. (Buddhica: documents et travaux pour l'étude du bouddhisme, 4)

(BSBS, D3.6.001, Lib.R180.321/CO)

これは、1837 年に Hodgson より Société Asiatique に送られ、BnF へ移管された mdo-mang¹¹³ と称される 205 種の陀羅尼テキストを抄録した陀羅尼集の写本 (Fonds tibétain no. 492)¹¹⁴ の目録である¹¹⁵。同じく BnF 所蔵の版本

¹¹² Cordier 1903b.

¹¹³ 同じく mdo-mang と称される写本はヘルシンキ大学図書館にも所蔵され、Aalto により目録が刊行されている。この写本は、1930 年頃フィンランドの宣教師がシッキムにて入手したものである。Aalto 1952. R. O. Meisezahl にも関連する論文がある。Meisezahl 1968.

¹¹⁴ Jean Filliozat: Fr030, p. x. BnF には 1861 年に Foucaux が作成したこの写本の目次が保存されている。Filliozat 1945, p. 65, no. 34: Table par P. E. Foucaux du manuscrit tibétain [Mdo-maṅ] de la Société Asiatique (actuellement Bibl. nat., Tibétain 492). Feer も目録を作成している。"Catalogue du mdo-maṅ (manuscript no. 492 de la Bibl. Nationale)". [Bibl. Nationale, fonds tibétain no. 478]. Lalou 1931, p. 15, no. 87.

¹¹⁵ 本書の書評者で、『青史』の翻訳 (The blue annals. Calcutta, 1949-1953) 等で著名なロシアのチベット学者 Georges de Roerich (1902-1960) によれば、mdo-mang は 'gZuṅs-sduṅ', 'abridgement of dhāraṅī' と呼ばれ、チベット語大蔵経より抽出したテキストを抄録したものである。同氏は、mdo-mang には大蔵経には見られない多くのタイトルとコロフォンがあること、Narthag, Derge 両版にはない多くのテキストが北京系の Kanjur に見出されることを指摘する。JAOS, 52 (1932), p.

(no. 509)、Musée Guimet 所蔵の版本 (no. 107, nos. 105-106)、Bibliothèque de l'Institut 所蔵の版本 (nos. 3546-3547)¹¹⁶、北京版とナルタン版 Kanjur 所収のテキストを参照して編纂されている。

BnF 所蔵の北京版 Kanjur は 1737 年の印刷本である。北京系の Kanjur¹¹⁷ は、永楽帝の勅令により永楽版 105 巻が 1410 年に開版され、1605 年に万曆版として重刊された。これをもとに康熙帝 (在位 1661-1722) の時代、1684-1692 年に新たに 105 巻が開版され¹¹⁸、1700 年に秘密部の冒頭、ka の前に om 巻を加え 106 巻とし、テキストの順序の入れ替えや増補が施され、埋め木等により若干の訂正を加えながら 1717-1720 年 (大谷大学図書館所蔵本)、1737 年、そして 1765 年以降にも一度印刷された。Tanjur は 1724 年に開版されたもので、大谷大学所蔵本と同一である。大谷大学図書館所蔵本¹¹⁹は影印刊行に際して、欠落部分をこの BnF 所蔵本で補填している¹²⁰。

395-399. "Bibliotheca Buddhica"の出版を 1960 年に再開したのも Roerich であり、遺作に『梵語対訳蔵・露・英辞典』11 冊 (Moskva, 1983-1993) がある。

¹¹⁶ Bibliothèque de l'Institut 所蔵のチベット語資料コレクションは、ロシアの Paul Schilling von Canstadt (1786-1837) がブリヤートにて収集した資料の一部で、一旦サンクトペテルブルクの Asiatic Museum に収められたが、1836 年に同氏により寄贈されたものである。Jacques Bacot が目録を編纂している。Bacot 1924. 山口益は、このコレクションに言及し「ビュルヌフのために、フォン・コンシュタートによってフランスの學士院にチベット文のコレクションが譲り渡された」と記述する。Yamaguchi (山口) 1954, p. 13. モンゴル語資料も同様に寄贈され、目録が出版されている。Ligeti 1930.

¹¹⁷ この系統の Kanjur 編纂の歴史と概要については、Eimer の論文がある。各 Kanjur の所蔵機関もリストアップされている。Eimer 2007, p. 42.

¹¹⁸ 御牧克己は従来の通説を退け、1684 年に初版が完成し印刷され、1692 年に第 2 版が終了し印刷されたと、新たな見解を提示する。Mimaki (御牧) 2021, p. 686-692.

¹¹⁹ 寺本婉雅 (1872-1940) が 1900 年北京の資福寺より将来した大蔵経である。

¹²⁰ 鈴木学術財団が影印刊行の際に発行したパンフレットがあり、編集方針が掲載されている。編集方針 6 に「大谷大學本の欠葉又は欠筈は、フランス國

BnF 所蔵の北京版、ナルタン版 Kanjur の宝積部と般若部について、Lalou は Staatsbibliothek zu Berlin - Preussischer Kulturbesitz の写本 Kanjur¹²¹、チベットの Kumbun 僧院で印刷されたナルタン版¹²²、Csoma の研究¹²³と比較検討した目録を出版した。

Fr034.

Marcelle Lalou: La version tibétaine du Ratnakūṭa: contribution à la bibliographie du Kanjur. In: JA, 211 (1927), 233-259.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k933111/f233.item.langFR>

(BSBS, D1.2.19.2.1.001)

Fr035.

Marcelle Lalou: La version tibétaine des Prajñāpāramitā. In: JA, 215 (1929), 87-102.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k93315d.image.f101.langFR>

(BSBS, D1.2.19.2.1.003)

前者については、漢語大藏経とも比較検討されている。

BnF 所蔵チベット語資料コレクションの『簡易目録』(Catalogue sommaire de fonds Tibétain) が3分冊として1936-1941年に編纂されたが、未

民図書館 (Bibliothèque Nationale) 蔵の北京版によって充足した」とある。影印北京版西蔵大藏経 全 168 巻 東京：鈴木学術財団, [196?]. 12 p. 筆者未見の資料であるが、大谷大学時報, 20 (1958), p. 8 に同様の趣旨が記述されていることを新作博明の引用文によって知ることができた。Niisaku (新作) [刊年 2010 年以降], p. 2.

¹²¹ 注 91 を参照。

¹²² この Kanjur については Paul Schilling von Canstadt が目録を公刊した。ナルタン版 Kanjur 目録の最初の出版であった。Schilling von Canstadt 1831, Eimer 1998, p. 8-9. Paul Schilling はデルグ版 Kanjur の dkar-chag 写本も収集し、ロシアのチベット学・モンゴル学のパイオニアである Isaak Iakob Schmidt (1779-1847) により復刻出版された。Schmidt 1845, Imaeda (今枝) 1981, p. 233, 注 14, Eimer 1998, p. 9.

¹²³ Csoma は、詳細な研究を 1836-1839 年に "Asiatic(k) Researches" に 4 回に分けて公表したが、サンスクリット語、チベット語のタイトル索引がなかったため、Feer が本書をフランス語訳し、索引を作成して出版し、利用の便に供した。Csoma 1881, Eimer 1998, p. 8.

出版のまま BnF に保存されている。これは、BnF 所蔵の北京版チベット語大蔵経の目録と索引である。最初の2分冊は Jean Filliozat が編纂した目録であり、第3分冊は Marie-Roberte Guignard と Alette Silbum により作成された索引である¹²⁴。『簡易目録』第1分冊 (Kanjur 全部と Tanjur の一部分、Tibétain 1-780) のノートが Archives et manuscrits で公開されている¹²⁵。1930-1932年、櫻部文鏡により大谷大学所蔵北京版チベット語大蔵経 Kanjur の至便な『勘同目録』が編纂されているが¹²⁶、Filliozat ノートの参考文献表には収録されていない。

4. モンゴル語写本・版本

Pelliot が 1901年、北京にてチベット語大蔵経とともに入手したモンゴル語大蔵経 Kanjur はハノイの EFEO に届き、1904年に BnF に送られた¹²⁷。この Kanjur は、1718-1720年に康熙帝 (在位 1661-1722) の勅令により北京にて開版された版本 Kanjur 108巻である。当時サンクトペテルブルクに写本 Kanjur¹²⁸は所蔵されていたが、ヨーロッパに版本 Kanjur が所蔵され

¹²⁴ BnF の Website 参照。 <https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/ark:/12148/cc43985>

¹²⁵ Jean Filliozat: Catalogue sommaire du fonds tibétain, 1: Fonds tibétain 1-780. 1936. 172 p. <https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/ark:/12148/cc96327h>.

¹²⁶ Otani University (大谷大学) 1930-1932.

¹²⁷ Bibliothèque nationale 1979. p. 24. No. 37: B.N., Mss. Or., Mongol 1-112.

¹²⁸ St. Petersburg State University Library (サンクトペテルブルク国立大学図書館) 所蔵の黒字写本 Kanjur である。この Kanjur の目録については拙稿を参照された。Sueki (末木), 2022, p. 141-140. 内藤湖南 (虎次郎, 1866-1934) は、高楠順次郎の要請により、奉天 (現在の瀋陽市) を訪れ、黄寺 (実勝寺) に所蔵されていた金字写本と版本の両 Kanjur と満州語大蔵経等を 1902年に初見、1905年に調査し、1924年『藝文』誌上に報告した。金字写本 Kanjur は 1905年、満州語大蔵経は翌 1906年に日本に将来され、東京帝国大学図書館に所蔵されたが、1923年9月1日に発生した関東大震災により焼失したようだ。Naitō (内藤) 1929. 『藝文』掲載論文は Pelliot 1924 に早速引用されている。金字写本 Kanjur と満州語大蔵経の発見から焼失に至る経緯については中見立夫の論文がある。Nakami (中見), 1993 and 2017. これらの資料焼失前年の7月から9月まで、両蔵を調査したのは石濱純

たのは Pelliot 将来本が最初であった¹²⁹。

Pelliot と親交の深かった Oldenburg の仲介で、後にモンゴル学で大きな業績を残し、"Bodhicaryāvataṛa"のモンゴル語訳も校訂出版した¹³⁰ロシアの Boris IAkovlevich Vladimirtsov (1884-1931)¹³¹がサンクトペテルブルクよりこの Kanjur の目録作成のためにパリに派遣され、1912 年より編集作業が開始された¹³²。Kanjur の第一部分の目録は第一次世界大戦 (1914 年 7 月 28 日) 開始前には完成していたようだが、未刊のままとなった¹³³。

Kanjur の目録と索引は、パリで Pelliot 等の薫陶を受けたハンガリーの

太郎 (1888-1968) であったが、調査半ばで水泡に帰した。Naitō (内藤) 1929, p. 290. しかしながら、石濱の蒙・満語大蔵経研究はここに始まり、若干の調査備忘記録、内藤湖南、羽田亨 (1882-1955) と京都大学所蔵資料を利用して、1920年代後半より陸続と研究成果を公表した。Ishihama (石濱) 1927, 1927-1930, 1930, 1931. Tsutsumi (堤) 2017, p. ii-iii. 現在、多少まとまった金字写本 Kanjur の所蔵が確認されているのは、フフホトの Library of the Inner Mongolia Academy of Social Science (内蒙古自治区社会科学院図書館) 所蔵の20巻であり、中国以外では2012年夏に初めてロシアの研究者により調査され、概要が報告された。Alekshev and Turansukaya 2013. その他、ヨーロッパ諸国とロシアに所蔵されている写本 Kanjur の研究も進捗し、Kanjur に関する近年の研究状況が報告されている。Kollmar-Paulenz 2017.

¹²⁹ Pelliot 1924, p. 284, Monnet 2013, p. 179-180, Monnet 2016, p. 195-196.

¹³⁰ Vladimirtsov 1929.

¹³¹ ウクライナ出身の Vladimirtsov は、サンクトペテルブルクにて 1911 年修士号を取得した。1905-1906 年に、激動の時代を迎えたロシアを一旦離れ、École spéciale des langues orientales と Collège de France に留学している。

¹³² 1912 年 5 月 4 日付の Pelliot より Oldenburg 宛の書簡を参照。Bongard-Levin, Lardinois, et Vigin 2002a, p. 246. Vladimirtsov は、パリ滞在中に Collège de France にて Sylvain Lévi の講義も聴講していた。同上, p. 126.

¹³³ Pelliot は、目録編纂の進捗を計るため Kanjur の一部を他の図書館に移し、夜間の作業も企てたが、BnF に拒否され実現しなかった。Pelliot 1924, Monnet 2013. また、Pelliot はこの目録が完成し、出版されることを期する旨を 1914 年に記している。JA, 1914, p. 112, 注 2. 石濱も、この Pelliot 論文を参照し「康熙校刊本は佛國の P. Pelliot 先生によって巴里へ将来され、露國の B. Vladimircov 先生によって夙に目録が出来た筈だが、出版は未だらしい。」と記す。Ishihama (石濱) 1930, p. 471-472.

Louis (Lajos) Ligeti (1902-1987)¹³⁴により編纂された。Ligeti は 1928-1931 年に内モンゴルを探検旅行し、そこで版本 Kanjur を調査、BnF 所蔵 Kanjur も一部参照して概要を報告している¹³⁵。Ligeti によると、旅行中に目録の草稿は完成し、以下の目録の構成を報告している¹³⁶。

Fr036.

Louis Ligeti: Catalogue du Kanjur mongol imprimé, 1: Catalogue. Budapest: Société Kőrös Csoma, 1942-1944. 345 p. (Bibliotheca Orientalis Hungarica, 3)

https://altaica.ru/LIBRARY/Ligeti/Ligeti_Catalogue%20du%20Kanjur%20mongol%20imprime_I%201942.pdf

(BSBS, E1.2.1.001, Lib. R180.321/LJ)

本蔵には、大谷大学図書館所蔵北京版チベット語大蔵経と同様、順序は異なるが、蒙・漢・蔵・満語の4種の目録(漢語では『如来大蔵経総目録』)が付属している。Ligetiは蒙語目録前段の、文書の一部と大蔵経編纂に関係した人物の名前と役職のリストを翻字し巻末に付す。

Ligeti目録に対する書評は3点¹³⁷ほどあり、ドイツのWilly Baruch (1900-1954)¹³⁸の書評では、サンスクリット語のタイトルが詳細に検討され、誤りが訂正されている¹³⁹。

¹³⁴ Ligetiは、1949年より21年間ハンガリー科学アカデミーの副会長を務め、同アカデミーの東洋学誌"Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae"を1950年に創刊した。

¹³⁵ Ligeti 1933, p. 49-54. 本論では、続いて Tanjur についても概要を報告している。

¹³⁶ 前掲書, p. 51.

¹³⁷ Bibl. bouddh, 21-23, 1952. p. 27, no. 261.

¹³⁸ 湯山明は Baruch について「故国を密かに逃れて、パリに在って苦しい生活を余儀なくされていた最中に、当時ヨーロッパで入手できる法華経梵文写本の校合を済ませていたのである。彼が、恐らく意図していたであろう上記[写本集成を指す]のごとき作業を目前に他界してしまったのは、余りにも悲しい政治の犠牲である。」と記す。Yuyama(湯山) 1994, p. 67.

¹³⁹ Asia Major, n. s. 2, 1 (1951), p. 126-130.

<https://www1.ihp.sinica.edu.tw/jp/Publications/AsiaMajor/842>

フランス国立図書館に所蔵される仏典写本・版本のコレクション概観（末木）121

索引は、モンゴル語、チベット語、サンスクリット語のタイトル、チベット語とモンゴル語のコロフォンにおける人名、各巻の最初に描かれた画像の名称(角カッコ内はBnF所蔵分)で構成されている。

Fr037.

Louis Ligeti: Répertoire du Kanjur mongol imprimé. In: AOH, 41, 3 (1987), 347-497.

(BSBS, E1.2.1.002)

Ligeti 目録 (Fr036) と BnF 所蔵 Kanjur との対応は、以下のコンコーダンスにより知られる。BnF の管理番号である F. M. = Fonds Mongol 番号 1-108 の順に配列され、対応する Ligeti 目録のページ数が記載されている。

Fr038.

Louis Ligeti: Le Kanjur mongol imprimé de la Bibliothèque nationale. In: JA, 253 (1965), 329-339.

(BSBS, E1.2.1.001)

オーストリア出身で米国インディアナ大学教授、ハンブルク大学名誉教授の F. A. Bischoff (1928-2009)¹⁴⁰ は、Ligeti 目録 (Fr036) に基づき、BnF 所蔵 Kanjur のコロフォンをローマ字転写し、テキスト名のサンスクリット語、チベット語、モンゴル語を記載し、Beckh の目録番号¹⁴¹、大谷目録番号¹⁴²と『大谷大学図書館蔵影印北京版西藏大藏経』の巻次との対応を示した目録を編纂している。

Fr039.

F. A. Bischoff: Der Kanjur und seine Kolophone, 2 Bde. Bloomington, 1968. III, 307; 308-574 p.

(BSBS, E1.2.1.1.002, Lib.R180.321/BI)

¹⁴⁰ Bischoff の略歴・業績については、Walravens 2009 を参照。

¹⁴¹ Beckh 1914.

¹⁴² Otani University (大谷大学) 1930-1932.

本書について de Jongは、誤りを訂正し、各テキストに関連する参考文献を補足、最後にコロフォン等で言及されている翻訳者の索引を付した詳細な書評論文を公表した¹⁴³。ベルギーのHenry Serruys (1911-1983) の書評では、コロフォンにおける漢語を原義とするモンゴル語が訂正され¹⁴⁴、コロフォンで使用されている翻訳、改訂、校訂、書写等の用語について検討されている¹⁴⁵。Ligeti目録 (Fr036) の利用にも有用な論文である。

BnFにはモンゴル語写本断簡4点も所蔵され、内2点は金字写本Kanjurであるが¹⁴⁶、チベット語写本と共に綴じられているため、'Tibétain 464'として登録されている¹⁴⁷。

5. 漢語写本・版本

BnFにて漢語写本・版本の受入れは、Louis 14世の統治下、宰相のJules Mazarin (1602-1661) からの寄贈資料にはじまる。その後、BnFはイエズス会士のJoachim Bouvet (1656-1730) が将来した康熙帝 (在位 1661-1722) からの寄贈資料を1697年に受入れた¹⁴⁸。

漢語写本について、先のFourmontの1739年刊の目録 (Fr013) に仏典は収録されていない¹⁴⁹。

Léon FeerはBnF所蔵の漢語仏典の目録を編纂したが、目録の「序論」のみが1898年に公表され、目録は出版されなかった¹⁵⁰。

¹⁴³ de Jong 1972. この書評に対する Bischoffの反論もある。Bischoff 1974.

¹⁴⁴ Serruys 1977-1978.

¹⁴⁵ Serruys 1980.

¹⁴⁶ Alekseev 2019, Turanskaia 2021.

¹⁴⁷ 画像が公開されている。 <https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/ark:/12148/cc105510c>

¹⁴⁸ 詳細については Leung 2002, chapter 5を参照。イエズス会士による中国図書収集については、前述のFr011, ptie 2, Chapitre XIV: Mission en Chine et dans l'Inde, p. 806ffを参照。

¹⁴⁹ Codices sinici, p. 367-432.

¹⁵⁰ BnFには内部資料として Feerが作成した"Catalogue des livres bouddhiques du

Fr040.

Léon Feer. Introduction au Catalogue spécial des ouvrages bouddhiques du Fonds chinois de la Bibliothèque nationale. In: TP, sér. I, 9 (1898), 201-214.

<http://www.archive.org/stream/tungpaotoungpao09corduoff#page/201/mode/1up>.

(BSBS, G1.2.19.001)

Feer の記述によると、BnF は 1879 年に 655 巻の不完全本の漢語大蔵経を漢語新資料コレクション (Nouveau Fonds chinois) の Nos. 3668-4322 として受入れた。由来については言及されていない。その他に重複等 84 点の残部を Nos. 4602-4608 として受入れた。ロンドンの India Office Library が 1875 年に受入れた黄檗版大蔵経¹⁵¹に対する Samuel Beal (1825-1889)¹⁵²と南条文雄 (1849-1927)¹⁵³それぞれが編纂した目録と BnF 所蔵の大蔵経を比較すると、収録する仏典にかなりの増減があることを Feer は指摘する¹⁵⁴。また、版式、文字の形等より単一の大蔵経ではなく、少なくとも二種の

nouveau fonds chinois, manuscrit avec caractères chinois, transcriptions chinoise et sanscrite, références au catalogue de Beal, à la collection d'Oxford et au Kanjur d'après l'analyse de Csoma", 4 vols. が保存されている。

<https://data.bnf.fr/fr/temp-work/4fbd5cdbee123160818b823e18e4bb0a/>

¹⁵¹ 岩倉使節団は 1872 年ロンドンを訪れた際、Samuel Beal の要請により本大蔵経をイギリスに進呈することを約束し、黄檗蔵は 1875 年に India Office Library に到着した。Wu 2017, p. 4.

¹⁵² Beal 1876. ヨーロッパで最初に編纂された漢語大蔵経の目録であるが、6か月以内の完成という時間的制約があり、漢語はローマ字転写のみで、漢字は使用されていない。またBnFには、"Catalogue du Tripitaka chinois de Samuel Beal, arrangé suivant l'ordre alphabétique et rapporté au catalogue d'Oxford, par Bunyu Nanjio, par Léon Feer." 110 p. が保存されている。Cabaton 『簡易目録』 (Fr023, fasc. 2), p. 176-177 (Papiers de Léon Feer, no. 14) <https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/ark:/12148/cc/78072w>

¹⁵³ Nanjio (南條) 1883. "Nanjio Catalogue"と言われ、広く利用されてきた。Bealの目録と同様に黄檗蔵所収の、元は嘉興蔵の正蔵に付された『大明三蔵聖教目録』を基に編纂されている。常盤大定と荻原雲来により編集された補正索引を収録する開明書院本の利用が推奨される。Nanjio (南條) 1977.

¹⁵⁴ Fr040, p. 204.

混合蔵と推定している¹⁵⁵。Feer が解説する扉絵の描写内容（釈迦説法図）と四字四句の経碑の文言¹⁵⁶に基づく大蔵経は、永楽南蔵、嘉興蔵等、明代以降の大蔵経が想定される¹⁵⁷。この「序論」に具体的な仏典名は言及されていないので、後述する BnF 所蔵『漢語・朝鮮語・日本語典籍目録』（Fr042）に収録された仏典と蔡目録¹⁵⁸を比較検討した。蔡目録の『第二目録（即大正蔵以外各蔵目録）対照表』を通覧すると、嘉興蔵の続蔵、又続蔵には高麗蔵や中国歴代漢語大蔵経に収録されていない語録等の中国撰述仏典が多数収録されていることが知られる。『漢語・朝鮮語・日本語典籍目録』に記載された仏典を調査すると、嘉興蔵の続蔵、又続蔵固有の典籍が収録されている¹⁵⁹。黄檗蔵は嘉興蔵正蔵の復刻であり、嘉興蔵の続蔵、又続蔵を含まないので、一蔵を嘉興蔵と仮定すると、続蔵、又続蔵所収仏典が Feer 指摘の増加分、正蔵部分の欠本が減少分に相当すると推定される。

Université de Lyon（リヨン大学）に1900年に創設された中国学講座教授の Maurice Courant（1865-1935）は、仏典については Sylvain Lévi の助力を得

¹⁵⁵ Fr040, p. 207.

¹⁵⁶ Fr040, p. 207-208. 「皇圖鞏固 帝道遐昌 佛日增輝 法輪常轉」「佛日增輝」の最後の一字「輝」が「沸」と印刷されているが、Feer は"Le soleil de Bouddha brille toujours davantage"と訳しているので誤植であろう。『修訂中華大蔵経』第二輯第一冊（1968），p. 1. 扉絵と経碑の詳細は University of Tokyo（東京大学）2010, p. 62-75 を参照。

¹⁵⁷ 山口県快友寺と立正大学図書館所蔵の永楽南蔵にも同様の扉絵と経碑が使用されている。Yamaguchi-ken Kyōiku Iinkai Bunka-ka（山口県教育委員会文化課）1992, p. 4, 6, Rishō University Library（立正大学図書館）1991, p. 12-13.

¹⁵⁸ Ts'ai（蔡）1983.

¹⁵⁹ 例：No. 6593: 石雨禪師法壇（N.F.C. 4116）（続蔵所収）、No. 6591: 三峯藏和尚語録（N.F.C. 4302）（又続蔵所収）。Ts'ai（蔡）1983, 第二目録, no. 333, p. 308; no. 445, p. 320. Chinois no. 6593: <https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/ark:/12148/cc28471t> Chinois no. 6591: <https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/ark:/12148/cc28469j>

て¹⁶⁰、BnF 所蔵の『漢語・朝鮮語・日本語典籍目録』を編纂し、1900 年より出版が開始された。Courant は、目録における統一性を保つため、旧番号を使用せず、新たな資料番号を付与している。

Fr041.

Maurice Courant: Catalogue des livres chinois, coréens, japonais, etc. Paris: Ernest Leroux, 1900-1912.

Chapitre XI: Bouddhisme, nos. 5727-6689.

Fasc. 5 (1907): Nos. 5665-6146; 6 (1910): 6147-6409; 7 (1910), 6409-6689.

(Lib.R029.135/CO.第6分冊は欠本)

この目録の第 11 章が Bouddhisme で、分類は次の通りである。

Mahāyāna sūtra (5727-6146) – Hinayāna sūtra (6147-6172) – Sūtra, series diverses (6173-6236) – Vinaya (6237-6279) – Abhidharma (6280-6356) – Œuvres chinoises (6357-6536) – Hagiographie, etc. (6537-6689)

記述内容は、仏典の漢語名、フランス語訳、サンスクリット語名、コロフォンのフランス語訳、漢語新資料コレクション番号、南條目録番号であり、本目録においても大蔵経の版本名は特定されていない。

Mahāyāna sūtra であれば、Prajñāpāramitā sūtra, Ratnakūṭa sūtra, Sukhāvāṇī sūtra 等々分類されているが、索引がないので利用には不便である。

前述の Feer 編纂の漢語仏典目録が出版されず、「序論」のみ 1898 年に出版された理由は、BnF における漢籍を中心とした漢語・朝鮮語・日本語の極東コレクションの目録編纂計画が 1897 年より開始されていたことが背景にあったものと推察される¹⁶¹。

'Archives et manuscrits'では、"Chinois 1-9090: cat. M. Courant"として、簡略な

¹⁶⁰ Fr041, fasc. 5, p. 251.

¹⁶¹ Courant は、BnF 所蔵の極東言語資料の目録編纂に関する BnF の申し出を 1897 年 2 月 4 日に受諾している。Bouchez 1983, p. 68.

書誌情報を提供している¹⁶²。

2021年にBnF所蔵の漢語古典籍の目録が出版されたことにより、漢語大蔵経は嘉興蔵であることが明らかとなった。

Fr042.

法國國家圖書館中文古籍目録 古恒部分 = Catalogue of Chinese ancient books at the Bibliothèque nationale de France. 北京：中華書局, 2021. 3, 7, 9, 485 p.

(Lib. R029.135/OU)

子部、佛教之屬、彙編に「嘉興大蔵経」を見出し語として嘉興蔵所収仏典が収録されている¹⁶³。目録に記載された個々の仏典の開版地は、五台山清涼山妙徳庵、径山興聖萬寿禅寺、径山化城寺、金沙顧龍山、呉江接待寺、虞山華嚴閣、嘉興楞嚴閣等であることが知られる¹⁶⁴。次に嘉興蔵以外の仏典が経蔵、論蔵、密蔵、疑偽、撰述と分類され、諸種の版本が収録されている。特に、広州開版本が多く、中でも広州海幢寺刻本¹⁶⁵が最も多い。「嘉興大蔵経」所収仏典と連番登録されている清涼山妙徳庵刻本『大智度論』(Chinois 5794-5797, 明萬曆 19 至 20: 1591-1592)、嘉興楞嚴閣刻本『佛祖歴代通載』(Chinois 348-350, 清順治 18: 1661)、径山興聖萬寿禅寺刻本『大明三蔵法數』(Chinois 6682-6684, 6685-6687, 明萬曆 21 至 23: 1593-1595) 等、嘉興蔵の重複本は、嘉興蔵以外の仏典として分類されている。本目録の巻末にタイトルの漢字の画数順による索引を付す。

BnF は、ベトナムで作成された漢語文献とチュノム文字漢語文献の写本・版本を所蔵し、山本達郎 (1910-2001) により目録が出版されている¹⁶⁶。

¹⁶² <https://archivesetmanuscripts.bnf.fr/pageCollections.html?col=1>.

¹⁶³ Fr042, p. 167-225.

¹⁶⁴ Nozawa (野沢) 2015, p. 77.

¹⁶⁵ 広州海幢寺における印経活動については、大西論文がある。Ōnishi (大西) 1985.

¹⁶⁶ Yamamoto (山本) 1954.

少量であるが仏典を含む¹⁶⁷。

6. Léon Feer (1830-1902)

以上概観したように、BnF における資料の収集と目録編纂には多くの人が関わってきたが、そのうちの一人 19 世紀後半に活躍した Léon Feer について若干触れたい。Feer は PTS 版 "Saṃyutta Nikāya" の校訂本 (5 冊 1884-1898 年刊) をはじめ、多くの仏典を研究したことで知られている¹⁶⁸。Feer は、師である Philippe-Édouard Foucaux (1811-1894) が 1862 年に Collège de France のサンスクリット語・文学講座の教授に就任したため、その後任として 1864 年から 1873 年まで École spécial des langues orientales のチベット語講座¹⁶⁹で教鞭を執っていた。1873 年 BnF 写本部の 3 等職員となり、多くの業績を挙げているが、准キュレーター (Conservateur-adjoint) に昇格したのは 17 年後、70 歳頃の 1900 年、逝去する約 2 年前であった。人柄は極めて控えめで、シャイな性格だったようで、他人との交際を好まず、ひたすらに BnF の東洋語写本・版本コレクションの資料整理とインド学仏教学研究に情熱を捧げた¹⁷⁰。一方、BnF を利用する若い研究者に対しては支援を惜しまず、円滑に研究できるよう懇切丁寧に対応していたようだ¹⁷¹。Lalou 編纂の Feer 著作目録によると、著作は公表分として書評も

¹⁶⁷ ベトナムにおける仏典刊行については宮嶋論文がある。Miyajima (宮嶋) 2020.

¹⁶⁸ リヨン大学教授 Félix Lacôte (1873-1925) は、フランスにおける仏典研究は、Bumouf, Foucaux そして Feer へと継承されたことを指摘する。Société Asiatique 1922, p. 234.

¹⁶⁹ 元々 Foucaux の師 Bumouf の発案であったチベット語講座は、BnF 内の小部屋に当初開設された。Foucaux がこの講座にて最初に講義した 1842 年 1 月 31 日は、フランス・チベット学誕生の日であり、Foucaux はヨーロッパにおける最初のチベット語の教師となった。Labrousse 1995, p. 269 (B. le Calloch 執筆)

¹⁷⁰ Watanabe (渡邊), 1918, p. 46, le Calloch 1997.

¹⁷¹ JRAS, 1902, 727.

含め 77 点、未公表分として 13 点¹⁷²の計 90 点があり、BnF 在籍期間中に 55 点を著述している。BnF には Feer が作成したサンスクリット語写本の詳細な目録ノートが保存されている。Petit の報告によると、469 点のサンスクリット語写本ノートは 1,400 ページにも及ぶ膨大なものである¹⁷³。Feer 作成のパーリ語写本の未出版目録については前述した通りである。Feer は、Bumouf や 1814 年ヨーロッパにはじめて Collège de France に創設された中国学講座の初代教授 Jean Pierre Abel Rémusat (1788-1832)¹⁷⁴が遺した原稿や書簡等の文書類も整理し、コメントを付した目録を出版し¹⁷⁵、今日においても研究資料として利用されている¹⁷⁶。同様に、Feer が遺し

<https://archive.org/details/journalroyalasi69irelgoog/page/726/mode/lup>

¹⁷² Bibl. bouddh, 2. 1931. Inédits (未公表) 分には、サンスクリット語写本の目録ノート等、収録されていない著作もある。

¹⁷³ Petit: Fr008, 178-179.

Catalogue du fonds sanskrit-devanagari. (Sanskrit 1773), Catalogue du fonds Sanskrit-Bengali. (Sanskrit 1774), Catalogue de manuscrits sanscrits en caractères granthas. By Léon Feer & Léon Rodet, [1868]. (Sanskrit 1775), Catalogue de manuscrits sanscrits en caractères télingas. (Sanskrit 1776), Catalogue de manuscrits sanscrits en caractères nagras, singhalais et cambodgiens. (Sanskrit 1777).

この目録ノートの一部が Archives et manuscrits にて公開されている。

<https://archivesetmanuscrits.bnf.fr/pageCollections.html?col=1>.

¹⁷⁴ 高田時雄は Abel Rémusat について、「ヨーロッパ中国学の黎明期に、天賦の才をもって登場し、確固たる中国学の基礎を築き上げたのがアベル・レミュザである。」と、中国学史における位置付けをしている。Takata (高田) 1996, p. 45. Abel Rémusat は『佛國記』の訳注研究 (Paris, 1836年刊) をしたが、ヨーロッパを襲ったコレラに罹患し逝去したため、パリを拠点としていたドイツの著名な中国学者で友人の Julius Heinrich Klaproth (1783-1835) とフランス学士院図書館の Ernest Clerc de Landresse (1800-1862) により編集出版された。この遺作についても同氏は、「およそインドの古代史に関する最も信頼のおける資料は中国の求法僧の残した記録であるが、それらのうち最も古い法頭の伝に着目したレミュザの慧眼は高く評価されねばならないであろう。」と評す。同上。高田も指摘するように、求法僧の資料研究の伝統は、後継の Stanislas Julien (1797-1873)、Édouard Chavannes、そして Paul Pelliot へと継承された。

¹⁷⁵ Feer 1894, 1899.

¹⁷⁶ Filliozat, Jean 1945, Yuyama (湯山) 1994, 2000.

た文書類 20 点も BnF に保存され、目録が出版されている¹⁷⁷。筆者は仏教学に関する Feer の業績を評価する立場にないが¹⁷⁸、Feer の BnF における書誌学的業績が未公表分も含め、卓越した言語能力により、サンスクリット語、パーリ語、チベット語、東南アジア語の典籍、そして漢語仏典にまで及んでいたことには驚嘆する他ない。BnF にて 19 世紀末までに収集されたインド学仏教学関係写本・版本利用の基礎は、Léon Feer によって築かれたと言っても過言ではなからう。

略号表¹⁷⁹

AcAs	Acta Asiatica.
AOH	Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae.
AMG	Annales du Musée Guimet.
AS	Asiatische Studien.
Bbu	Bibliotheca Buddhica.
BEFEO	Bulletin de l'École Française d'Extrême-Orient.
BEI	Bulletin d'Études Indiennes.

¹⁷⁷ Fr023, fasc. 2.

¹⁷⁸ 前述した Feer の著作目録が掲載されたのは、国際協力の下で編纂された仏教書誌 "Bibliographie bouddhique" の第 2 冊 (1931 年) であるが、同書誌には、その後 J. Ph. Vogel, Paul Pelliot, Sylvain Lévi, Louis de La Vallée Poussin の順に著作目録が出版されている。同書誌に収録されたことは、フランス語圏における Feer の業績に対する評価の一端と言えよう。山口益は、「さて、そのレオン・フェアーは、梵、巴、藏、蒙、ビルマ、シヤム等の各國語の佛典研究へとその研究を擴大した。因縁譚 Avadāna や本生譚 Jātaka に對する彼れの研究の成果は、今なお、かくべからざるものとして注意せらるる。レオン・フェアーは 1830 年より 1902 年まで在世したが、その長い一生の間、研究生活に倦まず疲れず、大量のテキストを耕し返した。尤もその結論としては、行き過ぎはあるけれども、その刊行物、リスト索引書等は研究上不可欠の道具である。」と評す。Yamaguchi (山口) 1954, p. 22.

¹⁷⁹ 本稿における略号で Bechert 1990 収録分は、それに基づく。

Bibl. bouddh	Bibliographie bouddhique.
Bibl. Ind. Buddh	Bibliographia Indica et Buddhica.
BSOAS	Bulletin of the School of Oriental and African Studies.
CRAI	Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles-Lettres.
EB	Eastern Buddhist.
HBK	法華文化研究 (Journal of Institute for the Comprehensive Study of Lotus Sutra)
IBK	印度学仏教学研究 (Journal of Indian and Buddhist Studies)
JA	Journal Asiatique.
JAOS	Journal of the American Oriental Society.
JICPBS	国際仏教学大学院大学研究紀要 (Journal of the International College for Postgraduate Buddhist Studies)
JPTS	Journal of the Pali Text Society.
JRAS	Journal of the Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland.
JS	Journal des Savants.
MAIBL	Mémoires de l'Académie des Inscriptions et Belles-Lettres.
MS	Monumenta Serica.
RO	Rocznik Orientalistyczny.
TGH	東洋學報 (Journal of the Research Department of the Toyo Bunko)
THG	東方学 (Eastern Studies)
TP	T'oung Pao.
TRAS	Transactions of the Royal Asiatic Society.
VOHD	Verzeichnis der Orientalischen Handschriften in Deutschland.
ZAS	Zentralasiatische Studien.
ZDMG	Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft.

参考文献

- Aalto, Pentti 1952. *Le Mdo-man conservé à la Bibliothèque Universitaire de Helsinki*.
Offprint from *Miscellanea bibliographica*, VI = Publications of the University Library at Helsinki,
23. 21 p.
(BSBS M4.032a)
- Adelung, Friedrich 1837. *Bibliotheca Sanscrita: Literatur der Sanskrit-Sprache*. 2.
durchaus verbesserte und vermehrte Ausgabe. St. Petersburg: Karl Kray. xxii, 430
p.
https://archive.org/details/bub_gb_C50oAAAAYAAJ/page/n9.
(BSBS K001. Lib.V929.81/AD)
- Alekseev, Kirill 2019. On the identification of the Mongolian "golden" fragments from
Dzungaria. In: *RO*, 72, 2, 9-19.
<https://journals.indexcopernicus.com/search/article?articleId=2561404>
(BSBS E1.2.2.6.004)
- Alekseev, Kirill & Turansukaya, Anna 2013. An overview of the Altan Kanjur kept at
the Library of the Academy of Social Sciences of Inner Mongolia. In: *AS*, 67, 3,
755-782.
<https://www.e-periodica.ch/digbib/view?pid=ast-002%3A2013%3A67%3A%3A773#779>
(BSBS E1.2.2.5.003)
- Anquetil Duperron, Abraham Hyacinthe 1771. *Zend-Avesta: ouvrage de Zoroastre*,
contenant les idées théologiques, physiques & morales de ce législateur, les
cérémonies du culte religieux qu'il a établi, & plusieurs traits importans relatifs à
l'ancienne histoire des Perfes, 3 vols. Traduit en françois sur l'original zend, avec
des remarques & accompagné de plusieurs traités propres à éclaircir les matieres
qui en sont l'objet. Paris: N. M. Tilliard.
<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k933916s/f2.image>.

(Lib.V168/PE)

Anquetil Duperron, Abraham Hyacinthe 1801-1802. *Oupnek'hat* (id est, *Secretum tegendum*): Opus ipsa in India rarissimum, continens antiquam et arcanam, seu theologicam et philosophicam, doctrinam, e quatuor sacris Indorum Libris, Rak Beid, Djedjr Beid, Sam Beid, Athrbān Beid, excerptam; ad verbum, è Persico idiomate, Samskreticis vocabulis intermixto, in Latinum conversum; dissertationibus et annotationibus, difficiliora explanantibus, illustratum, 2 vols. Paris.

https://books.google.co.jp/books?id=k9VCAAAAcAAJ&redir_esc=y.

https://books.google.co.jp/books?id=xdVCAAAAcAAJ&redir_esc=y.

Anquetil Duperron, Abraham Hyacinthe 1997. *Voyage en Inde 1754-1762: relation de voyage en préliminaire à la traduction du Zend-Avesta*. Présentation, notes et bibliographie par Jean Deloche, Manonmani & Pierre-Sylvain Fillozat. Paris: Maisonneuve et Larose, École française d'Extrême-Orient. 530 p., illus.

(BSBS M1.10.002(6), Lib.292.509/AN)

App, Urs 2010. *The birth of Orientalism*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press. xviii, 550 p.

(BSBS L1.1.086, Lib.220/AP)

Arlotto, Anthony T. 1969. Jones and Coeurdoux: correction to a footnote. In: *JAOS*, 89, 416-417.

(BSBS, M1.10.001(1))

Bacot, Jacques 1924. *La collection tibétaine Schilling von Canstadt à la Bibliothèque de l'Institut*. In: *JA*, 205, 321-348.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k933053.image.f323.langFR>.

(BSBS E2.2.7.1.001(1))

Balbir, Nalini 2017. French encounters with the Jains and the Paris Jain manuscripts. In: *Ḍo. Śrī Kanubhāi Vra. Śheṭh: Abhinandana grantha* [Dr. Kanubhai V. Sheth felicitation volume]. *Śrutaratnākar*. p. 187-202.

http://www.academia.edu/32781861/French_encounters_with_the_Jains_and_the_Paris_Jain_manuscripts.

Barthélemy Saint-Hilaire, Jules 1866. Du bouddhisme et de sa littérature à Ceylan: collection de M. Grimblot, Consul de France à Ceylan. In: JS, 43-59, 100-116, 151-167.

(BSBS C1.2.6.1.001, Lib.182.92/BA)

Beal, Samuel 1876. The Buddhist Tripiṭaka as it is known in China and Japan: a catalogue and compendious report (大明三藏聖教). [London] 117 p.

(BSBS G1.2.19.001, Lib.V180.321/BE)

Bechert, Heinz (hrsg.) 1990. Abkürzungsverzeichnis zur buddhistischen Literatur in Indien und Südostasien. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht. 243 p. (Sanskrit-Wörterbuch der buddhistischen Texte aus den Turfan-Funden, 3)

https://digi20.digitale-sammlungen.de/fs1/object/display/bsb00040432_00002.html

(BSBS Abbreviations, Lib. R180.320/BE)

Beckh, Hermann 1914. Verzeichnis der tibetischen Handschriften der Königlichen Bibliothek zu Berlin, Abt. 1: Kanjur (Bkäh-hgyur). Berlin: Behrend. x, 192 p. (Die Handschriften-Verzeichnisse der Königlichen Bibliothek zu Berlin, 24)

(BSBS D1.2.16.001, Lib.R929.3231/BE)

Bendall, Cecil 1883. Catalogue of the Buddhist Sanskrit manuscripts in the University Library, Cambridge. Cambridge: at the University Press. lvi, 225 p., 5 fold. plates.

<https://archive.org/details/catalogueofbuddh00camb/page/n5>.

Reprinted by Franz Steiner in Stuttgart, 1992 under the series of the Publications of the Nepal-German Manuscript Preservation Project, 2=VOHD, Supplementband 33.

(BSBS M1.24.033a, Lib.R180.321/BE)

Bibl. bouddh, 2: Mai 1929-mai 1930. 1931. Bibliographie rétrospective: L'œuvre de Léon Feer, par Marcelle Lalou. Paris: Paul Geuthner. p. 2-17.

(BSBS K2.006, Lib.R180.323/BI)

Bibl. bouddh, 7-8: Mai 1934-mai 1936. 1937. Bibliographie rétrospective: L'œuvre complète du Professeur Sylvain Lévi. Bibliographie par Maurice Maschino, index par Nadine Stchoupak. Paris: Paul Geuthner.

(BSBS K2.006, Lib. R180.323/BI/7-8)

Reprinted in *Mémorial Sylvain Lévi*. Preface by Eli Franco. Delhi: Motilal Banarsidass, 1996. p.

441-508. (Landmarks in Indology: a reprint series, 1)

(BSBS M1.10.020(6), Lib. 129.103/LE)

Bibl. bouddh, 21-23: Mai 1947-mai 1950. 1952. Paris: Imprimerie nationale.

Bibliothèque nationale 1979. Trésors de Chine et de Haute Asie: centième anniversaire de Paul Pelliot. Paris: Bibliothèque nationale.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k6533961z/f1.image>

(BSBS, D1.2.19, Lib.R026.2/BI)

Bischoff, F. A. 1974. A reply to J. W. de Jong: Notes à propos des colophons du Kanjur. In: ZAS, 8, 574-578.

(BSBS E1.2.1.1.002(2))

Bongard-Levin, Gregori & Vigasin, Aleksej 1984. The image of India: the study of ancient Indian civilisation in the USSR. Moscow: Progress Publishers. 270 p., [32] p. of plates.

(BSBS, L1.2.18.012, Lib.185.51/BO)

Bongard-Levin, Gregori, Lardinois, Roland et Vigasin, Aleksej 2002a. Correspondances orientalistes: entre Paris et Saint-Petersbourg (1887-1935). Paris: Diffusion de Boccard. 304 p., illus. (MAIBL, 26)

(BSBS L1.2.8.011, Lib.180.4/BO)

Bongard-Levin, Gregori, Lardinois, Roland et Vigasin, Aleksej 2002b. Deux indianistes dans la cité: portraits croisés de Sylvain Lévi (1863-1935) et de Sergej F. Ol'denburg (1863-1934). In: CRAI, 146, 707-721.

https://www.persee.fr/doc/crai_0065-0536_2002_num_146_2_22467

(BSBS M1.10.020(12))

Bouchez, Daniel 1983. Un défricheur méconnu des études extrême-orientales: Maurice Courant (1865-1935). In: JA, 271, 43-150.

<https://shs.hal.science/halshs-00724923>

Brough, John (ed. with an introduction and commentary) 1962. The Gāndhārī Dharmapada. London: Oxford University Press. xxv, 319 p., xxiv p. of plates.

(London Oriental series, 7)

Reprinted in Delhi, 2001.

(Lib.183.100/BR)

Burnouf, E. 1827. Observations grammaticales sur quelques passages de l'Essai sur le Pali de MM. E. Burnouf et Lassen. Paris: Dondey-Dupré. 30 p., fold. plates.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k5807429z.texteImage>

(Lib.V829.835/BU)

Burnouf, E. 1829. Rapport fait au conseil de la Société Asiatique, sur la collection de manuscrits et d'antiquités rapportée de l'Inde par M. Bélanger. In: JA, 4, 452-461.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k93114h/f454.image>.

Burnouf, E. & Lassen, Chr. 1826. Essai sur le Pali: ou, Langue sacrée de la presqu'île au-delà du Gange, avec six planches lithographiées, et la notice des manuscrits palis de la Bibliothèque du roi. Paris: Dondey-Dupré. 222, [2] p., 6 fold. plates.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k9758263k.texteImage>

(Lib.V829.835/BU)

Le Calloch, Bernard 1997. Léon Feer et la Tibétologie. In: Tibetan studies, 2. Wien: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften. p. 551-558. (Proceedings of the 7th Seminar of the International Association for Tibetan Studies, Graz 1995, II)

(BSBS M3.008(3), Lib.180.4/TI7-2)

Camps, Amulf & Muller, Jean-Claude 1988. The Sanskrit grammar and manuscripts of Father Heinrich Roth S.J. (1620-1668): facsimile edition of Biblioteca Nazionale, Rome, MSS. Or. 171 and 172. Leiden: E. J. Brill. 25 p., [168] p. of plates.

(BSBS M1.11.001(1), Lib.829.825/RO)

Childers, Robert Caesar 1875. A dictionary of the Pāli language. London: Trübner. xvii, xii, 624 p.

https://books.google.co.jp/books/about/A_Dictionary_of_the_Pali_Language.html?id=dCdaAAAYAAJ&redir_esc=y

(Lib. V829.833/CH)

Colas, Gérard 1997. Les manuscrits envoyés de l'Inde par les jésuites français entre 1729 et 1735. In: Scribes et manuscrits du Moyen-Orient. Sous la direction de François Déroche et Francis Richard. Paris: Bibliothèque nationale de France. p. 345-362.

Cordier, Palmyr 1903a. Récentes découvertes de mss. médicaux sanscrits dans l'Inde (1898-1902). In: *Le Muséon*, 22, 321-352.

(BSBS M1.10.024c) Fr002: Janert no. 79

Cordier, Palmyr 1903b. Introduction à l'étude des traités médicaux sanscrits inclus dans le Tanjur tibétain. In: *BEFEO*, 3, 604-629

http://www.persee.fr/doc/befeo_0336-1519_1903_num_3_1_1258.

(BSBS M1.10.024b)

Csoma, Alexander 1881. Analyse du Kandjour: recueil des livres sacrés du Tibet. Tr. de l'anglais et augmentée de diverses additions et remarques par Léon Feer. In: *AMG*, 2, 131-349.

(BSBS D1.2.10.003, Lib.V183.01/AN)

Demiéville, Paul 1966. Aperçu historique des études sinologiques en France. In: *AcAs*, 11, 56-110.

Reprinted in *Choix d'études sinologiques, 1921-1970*. Leiden: E. J. Brill, 1973. p. 433-487.

(Lib.181.9/DE)

和訳：フランスにおけるシナ學研究の歴史的展望. 大橋保夫 川勝義雄 興膳宏訳.

In: *THG*, 33-34 (1967), 147-128, 134-96.

(BSBS L6.2.1.002)

Eimer, Helmut 1998. The brief catalogues to the Narthang and the Lhasa Kanjurs: a synoptic edition of the Bka' 'gyur rin po che'i mtshan tho and the Rgyal ba'i bka' 'gyur rin po che'i chos tshan so so'i mtshan byañ dkar chag bsdus pa. Comp. by the Members of Staff, Indo-Tibetan Section of the Indologisches Seminar, Universität Bonn, issued on the occasion of Professor Dr. Claus Vogel's sixty-fifth birthday, July 6, 1998. Wien: Arbeitskreis für Tibetische und Buddhistische Studien, Universität Wien. 206 p. (Wiener Studien zur Tibetologie und Buddhismuskunde, 40)

(BSBS, D1.2.10.007, Lib. R180.321/BR)

Eimer, Helmut 2007. The Tibetan Kanjur printed in China. In: *ZAS*, 36, 35-60.

(BSBS D1.2.13.013)

Feer, Léon 1894. Papier d'Abel Rémusat. In: *JA*, sér. 9, 4, 550-565.

<http://archive.org/stream/journalasiatique50fragoog#page/n575/mode/2up>.

(BSBS M6.003(4))

Feer, Léon 1899. *Papiers d'Éugène Burnouf conservés à la Bibliothèque nationale. Augmenté de enseignements et de correspondances se rapportant à ces papiers.* Paris: H. Champion. 26, 197 p.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k2557127.image>.

(BSBS M1.10.009(4) Lib.V129.103/BU) Fr002: Janert no. 251

Filliozat, Jacqueline 2000. Nine Pāli manuscripts in the Vatican Library. In: *JPTS*, 26, 139-160.

<https://palitextsociety.org/journals-of-the-pali-text-society-free-downloads/>

(BSBS C1.2.21.1.001)

Filliozat, Jacqueline 2009. Les premiers manuscrits siamois à la Librairie du Roi sous Louis XIV et Louis XV. In: *Bouddhismes d'Asie: Monuments et littératures: journée d'étude en hommage à Alfred Foucher (1868-1952) réunie le vendredi 14 décembre 2007 à l'Académie des Inscriptions et Belles-Lettres (Palais de l'Institut de France)*. Recueil édité par Pierre-Sylvain Filliozat et Jean Leclant. Paris: Diffusion de Boccard. p. 281-309.

<https://bibasia.files.wordpress.com/2008/02/mss-siamois-du-roi.pdf>.

(BSBS, C1.2.6.1.012. Lib.180.4/FO)

Filliozat, Jacqueline 2013. The first Siamese manuscripts in France at the King's Library during the reigns of Louis XIV and Louis XV. In: *Thai International Journal for Buddhist Studies*, 4, 63-96.

http://www.academia.edu/37464292/The_first_Siamese_manuscripts_in_France_at_the_King_s_Library_during_the_reigns_of_Louis_XIV_and_Louis_XV.

(BSBS, C1.2.6.1.012)

Filliozat, Jean 1937. Une grammaire sanscrite du XVIIIe siècle et les débuts de l'indianisme en France. In: *JA*, 229, 275-284.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k933293.image.f277.langFR>.

Reprinted in the author's "*Laghu-prabandhāḥ: choix d'articles d'Indologie*". Leiden: E. J. Brill, 1974. p. 303-312.

(BSBS L1.1.036, Lib. 129.104/FI)

Filliozat, Jean 1945. Catalogue des manuscrits sanskrits et tibétains de la Société Asiatique. In: JA, 233/1941-1942, 1-81.

(BSBS B1.2.1.6.2.001) Fr002: Janert no. 257.

Filliozat, Jean 1987. Deux cents ans d'indianisme: critique des methodes et des résultats. In: BEFEO, 76, 83-116.

https://www.persee.fr/doc/befeo_03361519_1987_num_76_1_1718.

(BSBS L1.1.018)

Filliozat, Pierre-Sylvain 2014. La collection Palmyr Cordier à la Société asiatique et à la Bibliothèque nationale de France. In: JS, Juillet-Décembre, 269-286.

https://www.persee.fr/doc/jds_0021-8103_2014_num_2_1_6319

(BSBS M1.10.024(4))

Filliozat, Pierre-Sylvain 2020. À l'origine des études sanscrites: la grammatica Sanscritica de Jean-François Pons S.J. Étude, édition et traduction. Paris: Académie des Inscriptions et Belles-Lettres. 293 p. (MAIBL, 56)

(BSBS L1.1.042)

Gildemeister, Johannes 1847. Bibliothecae Sanscritae sive recensio librorum sanscritorum hujusque typis vel lapide exscriptorum critici specimen. Bonn. xiii, 192 p.

<https://archive.org/details/bibliothecaesan02gildgoog/page/n7>.

Nachträge by Reinhold Rost in ZDMG, 8 (1854), 604-608.

<http://menadoc.bibliothek.uni-halle.de/dmg/periodical/pageview/6943>.

(BSBS K002. Lib.V929.81/GI)

Godfrey, John J. 1967. Sir William Jones and Père Coeurdoux: a philological footnote. In: JAOS, 87, 57-59.

(BSBS M1.10.001(1))

Gomall, Alastair 2015. Fame and philology: R. C. Childers and the beginnings of Pāli and Buddhist studies in Britain. In: Contemporary Buddhism, 16, 2, 462-489.

<https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/14639947.2015.1031930>

Grimblot, Paul 1871. Extraits du Paritta: textes et commentaires en Pāli. Avec

introduction, traduction, notes et notices par Léon Feer. In: JA, 225-335.

<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k93198c/f225.item>

(BSBS C1.2.6.1.001)

Grimblot, Paul 1876. *Sept suttas pālis: tirés du Dīgha-nikāya*. Paris: Imprimerie nationale. xii, 350 p.

(BSBS C1.2.6.1.001, Lib.V183.000/GR)

Guruge, Ananda W. P. 1984. *From the living fountains of Buddhism: Sri Lankan support to pioneering Western Orientalists*. Colombo: Ministry of Cultural Affairs. ccx, 478 p., plates.

(BSBS L2.1.010, Lib. 180.4/GU)

Haarh, Erik 1954. *Die Berliner Kanjur-Handschrift: Berichtigung zu Hermann Beckhs Verzeichnis der tibetischen Handschriften*. In: ZDMG, 104, 539-540.

<http://menadoc.bibliothek.uni-halle.de/dmg/periodical/pageview/80987>.

(BSBS D1.2.16.003)

Hal, Toon van & Vielle, Christophe (ed.) 2013. *Grammatica Grandonica: the Sanskrit grammar of Johann Ernst Hanxleden S.J. (1681-1732)*. With a photographic reproduction of the original manuscript by Jean-Claude Muller. Potsdam: Potsdam Universität. v, 280 p.

<https://publishup.unipotsdam.de/opus4ubp/frontdoor/index/index/docId/6251>.

(BSBS L1.1.037.*1-5)

Harrison, Paul & Hartmann, Jens-Uwe (ed.) 2014. *From birch bark to digital data: recent advances in Buddhist manuscript research. Papers presented at the Conference Indic Buddhist Manuscripts: the state of the field, Stanford, June 15-19 2009*. Wien: Verlag der Österreichische Akademie der Wissenschaften. xxii, 403 p. (Beiträge zur Kultur- und Geistesgeschichte Asiens, 80)

(BSBS, B1.1.002, Lib.180.4/HA)

Hodgson, B. H. 1874. *Essays on the languages, literature, and religion of Napāl and Tibet: together with further papers on the geography, ethnography, and commerce of those countries*. London: Trübner & Ludgate Hill. viii, 145, 124 p., illus.

<https://archive.org/details/essaysonlanguage00hodg/page/n12/mode/1up>

(BSBS M1.24.011a, Lib. 222.91/HO)

Imaeda, Yoshiro 今枝由郎 1981. Note sur le Kanjur de Derge. In: *Tantric and Taoist studies: in honour of R. A. Stein*, 1. Bruxelles: Institut Belge des Hautes Études Chinoises. p. 227-236. (Mélanges Chinois et Bouddhiques, XX)

(BSBS D1.2.2.001, Lib. 180.4/ST/1)

Ishihama, Juntarō 石濱純太郎 1927. 金字蒙文藏經金光明經の斷簡に就て [On a golden fragment of Mongolian Suvamprabhāsottamasūtra]. In: *支那學*, 4, 3, 52-80.

Ishihama, Juntarō 石濱純太郎 1927-1930. 満州語譯大藏經考 [Survey on the Manchu Buddhist canon]. In: *書物の趣味*, 1, 35-47; 2, 58-69; 6, 36-46.

(BSBS E3.2.001)

Ishihama, Juntarō 石濱純太郎 1930. 殿板蒙古文大藏經考 [Survey on the Mongolian Kanjur printed in the court]. In: *大谷學報 (Journal of Buddhist Studies and Humanities)*, 11, 471-477, plate.

<http://id.nii.ac.jp/1374/00004923/>

(BSBS E1.2.1.001.*1)

Ishihama, Juntarō 石濱純太郎 1931. 京都帝國大學所藏蒙古文丹殊爾記 [A report on the Mongolian Tanjur kept at Kyoto University]. In: *東洋史論叢 桑原博士還曆記念*. 京都: 弘文堂. p. 469-475.

(BSBS E1.2.3.1.002, Lib. 220.04/KU)

Iyanaga, Nobumi 彌永信美 2017. A history of the Hōbōgirin: dictionnaire encyclopédique du bouddhisme d'après les sources chinoises et japonaises. In: *EB*, 48, 1 (2017), 7-21.

<http://id.nii.ac.jp/1374/00008387/>

(BSBS K16.5.007)

de Jong, J. W. 1972. Notes à propos des colophons du Kanjur. In: *ZAS*, 6, 505-559.

Reprinted in this author's *Buddhist studies*, (Berkeley, 1979), 149-203.

(BSBS E1.2.1.1.002(1))

de Jong, J. W. 1997. *A brief history of Buddhist studies in Europe and America*. Unified ed. Tokyo: Kōsei Publishing. 183 p.

(BSBS, L1.1.004, Lib.180.7/JO)

Kamiyama, Takao 神山孝夫 2006. 印欧祖語の母音組織 研究史要説と試論 (Proto-Indian-European vocalism: a new approach with a historical survey). 岡山 : 大学教育出版. 351 p.
(Lib.801.09/KA)

Kollmar-Paulenz, Karénina 2017. The Mongolian Kanjur: some remarks about the current state of research. In: Mongol ganzhuur: olon ulsyn sudalгаа (Mongolian Kanjur: international studies). Erenkhüredaktor: S. Chuluun (Editor-in-chief: S. Chuluun). Ulaanbaatar. p. 17-36.
(BSBS E1.1.029, Lib. 183.01/CH)

Labrousse, Pierre (textes réunis) 1995. Langues O' 1795-1995: deux siècles d'histoire de l'École des langues orientales. Paris: Hervas. 477 p.
(BSBS L11.2.3.4.002, Lib.R803.5/L)

Lardinois, Roland 2013. Paul Pelliot au regard épistolaire de Sylvain Lévi "Un savant qui fait honneur à la phalange...". In: Pelliot, Paul 2013, 213-270.
(M6.031(10), Lib.220.04/DR)

La Vallée Poussin, Louis de 1924. Indo-européens et indo-iraniens: l'Inde jusque vers 300 av. J.-C. Paris: De Boccard. 345 p. (Histoire du monde, 3)
(Lib.129.100/VA)

Leung, Cécile 2002. Etienne Fourmont (1683-1745): Oriental and Chinese languages in eighteenth-century France. Leuven: Leuven University Press. 314 p. (Leuven Chinese studies, 13)
(Lib.820.1/LE)

Lévi, Sylvain 1907-1911. Asaṅga: Mahāyāna-Sūtrālamkāra: exposé de la doctrine du grand véhicule; selon le système Yogācāra, 2 vols. Édité et traduit d'après un manuscrit rapporté du Népal. Paris: Librairie Honoré Champion.
(Lib. 183.941/AS)

Ligeti, Louis 1930. La collection mongole Schilling von Canstadt à la Bibliothèque de l'Institut. In: TP, 27, 119-178.
https://brill.com/view/journals/tpao/27/1/article-p119_6.xml

(BSBS E2.2.7.1.001)

Ligeti, Louis 1933. Rapport préliminaire d'un voyage d'exploration fait en Mongolie chinoise, 1928-1931. Budapest: Société Kőrös Csoma. 64 p., 12 p. of plates.

Reprinted in 1977.

https://altaica.ru/LIBRARY/Ligeti/Ligeti_Rapport%20preliminaire%20dun%20voyage%20en%20Mongolie%20chinoise%201977.pdf

(BSBS E1.2.1.001(1))

Liyanaratne, Jinadasa 1991. Sinhalese medical manuscripts in Paris. In: Medical literature from India, Sri Lanka and Tibet. Ed. by G. Jan Meulenbeld. Leiden: E. J. Brill. p. 73-90. (Panels of the VIIth World Sanskrit Conference, VIII)

(BSBS C1.2.6.1.010, Lib. 129.103/PA/8-9)

First published in BEFEO, 76 (1987), 185-199.

http://www.persee.fr/doc/befeo_0336-1519_1987_num_76_1_1723.

Reprinted in the author's Buddhism and traditional medicine in Sri Lanka. Kelaniya: Kelaniya University Press, c1999. p. 88-109.

Max Müller, Friedrich 1885. Lectures on the science of language, 1. New ed. London: Longmans, Green. xviii, 481 p.

<https://archive.org/details/lecturesonscien07mlgoog/page/n5>.

(Lib.V804/MU)

Mayrhofer, Manfred 1983. Sanskrit und die Sprachen Alteuropas: zwei Jahrhunderte des Widerspiegels von Entdeckungen und Irrtümern. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht. p. 123-153, 23 p. of facsimiles. (Nachrichten der Akademie der Wissenschaften in Göttingen, Philologisch-Historische Klasse, Jhrg. 1983, Nr. 5) Anhang: Père Coeurdoux' Bericht über die Ähnlichkeiten von Sanskrit, Griechisch und Latein. "Mémoires de Littérature, de l'Académie Royale des Inscriptions et Belles-Lettres", 1808 is reprinted.

(BSBS M1.10.001(2), Lib.829.820/MA)

Meiszahl, R. O. 1968. Über zwei mdo-mañ Redaktionen und ihr Editionen in Tibet und China. In: ZAS, 2, 67-129, 1a-9b.

(BSBS D3.6.004)

- Mimaki, Katsumi 御牧克己 2021. A note on the stages of the Peking bKa'gyur edition.
In: Gateways to Tibetan studies: A collection of essays in honour of David P. Jackson on the occasion of his 70th birthday, 2. Ed. by Völker Caumanns, Jörg Heimbels, Kazuo Kano, and Alexander Schiller. Hamburg: Department of Indian and Tibetan Studies, Universität Hamburg. p. 685-699. (Indian and Tibetan studies, 12)
(BSBS D1.2.17.004, Lib. 186.03/JA/2)
- Minaev, Ivan Pavlovich 1869. Pratiṃśokṣa-sūtra: buddhīskāi sluzhebniĭ. Sankt-peterburg. iii, 120 p.
(Lib.V183.811/MI)
- Mironov, N. D. 1914. Katalog" indīskikh" rukopisei, vypusk" 1. Petrograd": Tipografiia Imperatorskoĭ Akademii Nauk". 360 p. (Catalogus codicum manu scriptorum Indicarum qui in Academiae Imperialis Scientiarum Petropolitanae Museo Asiatico asservantur, 1)
Pāli: Nos. 431-458.
http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=3023.
Bauddha: Nos. 414-430.
(BSBS C1.2.14.2.001, Lib.R929.8100/MI)
- Mitra, Rājendralāla 1882. The Sanskrit Buddhist literature of Nepal. Calcutta: Asiatic Society of Bengal. xlvii, 340 p.
<https://archive.org/details/sanskritbuddhist00asiauoft/mode/1up>
Reprinted with a new introduction by Alok Roy in Calcutta, 1971.
(BSBS B1.2.1.8.2.001, Lib. 183.01/MI)
- Miyajima, Junko 宮嶋純子 2020. 近世ベトナム北部地域における仏典刊行事業 (Publishing project of Buddhist wooden block scriptures in Northern Vietnam in the early modern times). In: 関西大学東西学術研究所紀要 (Bulletin of the Institute of Oriental and Occidental Studies, Kansai University), 53, 155-172.
<http://doi.org/10.32286/00020452>
- Monnet, Nathalie 2013. Paul Pelliot et la Bibliothèque nationale. In: Pelliot 2013, 137-204.

- Monnet, Nathalie 2016. Three decades of close relations between Sergei Oldenburg and Paul Pelliot. In: *Sergeï Fedorovich Ol'denburg: uchenyi i organizator nauki*. Moskva: Nauka – Vostochnaia literature. p. 191-206.
(M1.20.012(11), Lib. 180.4/OL)
- Moriyasu, Takao 森安孝夫 1996. ペリオ (Paul Pelliot [1878-1945]). In: *東洋学の系譜 欧米篇*. 東京：大修館書店. p. 137-152.
(BSBS L11.2.7.005, Lib.220/EG)
- Muller, Jean-Claude 1985. Recherches sur les premières grammaires manuscrites du sanskrit. In: *BEI*, 3, 125-144.
(BSBS L1.1.037)
- Muller, Jean-Claude 1986. Early stages of language comparison from Sasseti to Sir William Jones. In: *Kratylos*, 31, 1-31.
(BSBS L1.1.073)
- Murr, Sylvia 1987. *L'Inde philosophique entre Bossuet et Voltaire*, 2 vols. Paris: École Française d'Extrême-Orient. (Publications de l'École Française d'Extrême-Orient, 146)
I: Mœurs et coutumes des Indiens (1777). Un inédit du Père G.-L. Coeurdoux s.j. dans la version de N.-J. Desvaux, Texte établi et annoté par Sylvia Murr. 246 p.
II: L'Indologie du Père Coeurdoux: stratégies, apologétique et scientificité. *L'Inde philosophique entre Bossuet et Voltaire*. vi, 250 p.
(BSBS M1.10.001(3), Lib.225.05/MU)
- Naitō, Konan (Torajirō) 内藤湖南 (虎次郎) 1929. 焼失せる蒙満文藏經 [Burnt Mongolian and Manchu Buddhist canons]. In: *讀史叢録*. 東京：弘文館. p. 275-308.
国立国会図書館デジタルコレクションにて閲覧可。 <https://dl.ndl.go.jp/>
初出：藝文, 15, 3, 6 (1924).
再録：内藤湖南全集 7 卷. 東京：筑摩書房 1970. p. 427-447.
(BSBS E1.1.002, Lib.220.8 NA-7)
- Nakami, Tatsuo 中見立夫 1993. 日本にあったチベット語・満州語・モンゴル語大藏経をめぐる [On Tibetan, Manchu and Mongolian Buddhist canons

once existed in Japan]. In: 日本所在清代檔案史料の諸相. 東京：東洋文庫清代研究室. p. 105-118.

Nakami, Tatsuo 中見立夫 2017. The Japanese search for the Mongolian Kanjur in the early 20th century: A forgotten Mongolian Kanjur at the Tokyo Imperial University. In: Mongol ganzhuur: olon ulsyn sudalгаа (Mongolian Kanjur: international studies). Editor-in-chief: S. Chuluun, Ulaanbaatar. p. 135-150.

(BSBS E1.2.029, Lib.183.01/CH)

Nanjio, Bunyiu 南條文雄 1883. A catalogue of the Chinese translation of the Buddhist Tripiṭaka: the sacred canon of the Buddhists in China and Japan (大明三藏聖教目録). Oxford: Clarendon Press. xxxvi, 480 p.

Reprint: Tokyo, Nanjō Hakushi Kinen Kankōkai, 1929.

Indian reprint: Delhi, Motilal Banarsidass, 1989.

<http://www.kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~witemn/data/nanjio-catalog.pdf>

(BSBS G1.2.15.001, Lib.V029.6/NA)

Nanjio, Bunyiu 南條文雄 1977. 大明三藏聖教目録 附補正索引 [A catalogue of the Chinese translation of the Buddhist Tripiṭaka: the sacred canon of the Buddhists in China and Japan; with a revised index]. 東京：開明書院. xxxvi, 480, ix, 142, [10] p.

(BSBS G1.2.15.004, Lib.R180.321/NA)

Neill, Stephen 1984-1985. A history of Christianity in India, 2 vols. Cambridge: Cambridge University.

[1]: The beginnings to AD 1707.

[2]: 1707-1858.

(BSBS L1.1.042,*1-1, M1.10.001(4)等, Lib.198.2225/NE)

Niisaku, Hiroaki 新作博明 [刊年2010年以降]. モンゴル国立図書館所蔵北京版カンギユルと大谷大学所蔵北京版カンギユルの比較 [Comparative survey on the Peking Kanjurs in the National Library of Mongolia and Otani University]. 9 p.

http://www.yuishoji.org/yuishoji_bceri_dps_pekinkangyur.html

(BSBS D1.2.18)

- Nozawa, Yoshimi 野沢佳美 2015. 印刷漢文大蔵経の歴史 中国・高麗篇 [A history of Chinese block-printed Tripiṭaka produced in China and Korea]. 立正大学品川図書館編. 東京：立正大学情報メディアセンター. 121 p. (シリーズ・アタラクシア, 3)
<http://hdl.handle.net/11266/00007633>
(BSBS G1.1.080, Lib. 183.003/NO)
- Ōnishi, Kazuhiko 大西和彦 1985. 近世ベトナム仏教界と広州海幢寺 (The Vietnamese Buddhist society in the modern times and the Hai chuang su Temple in Guang zhou). In: 仏教史学研究 (Journal of the History of Buddhism), 27, 2, 69-94.
- Otani University 大谷大学 1930-32. 大谷大学図書館所蔵西藏大蔵経甘殊爾勘同目録 (A comparative analytical catalogue of the Kanjur division of the Tibetan Tripiṭaka). 京都：大谷大学図書館. 14, 477 p.
(BSBS D1.2.19.1.001, Lib.R180.321/OT)
- Pelliot, Paul 1924. Chronique. In: TP, 23, 284-285.
(BSBS E1.1.002)
- Pelliot, Paul 2013. Paul Pelliot, de l'histoire à la légende: colloque international organisé par Jean-Pierre Drège, Georges-Jean Pinault, Christina Scherrer-Schaub et Pierre-Étienne Will au Collège de France et à l'Académie des inscriptions et belles-lettres (Palais de l'Institut), 2-3 octobre 2008. Actes édités par Jean-Pierre Drège et Michel Zink. Paris: Académie des Inscriptions et Belles-Lettres. 598 p.
(BSBS M6.031(12), Lib. 220.04/DR)
- Petit, Jérôme & Balbir, Nalini 2006-2007. La collection Émile Senart et la découverte d'un manuscrit jaina illustré (Bibliothèque nationale de France <Sanskrit 1622>). In: BEI, 24-25, 177-190.
https://shs.hal.science/BNF_MSS/hal-01112840
(BSBS M1.10.018(3))
- Pfister, Louis 1976. Notices biographiques et bibliographiques sur les jesuites de l'ancienne mission de chine 1552-1773. Reprint. San Francisco: Chinese Materials Center. 2 vols. in 1. (xxv, 561, 6 p.; 561bis-1108, 7-44 p., 10 p. of plate)

T. 1: <https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k61546234>.

First published in Shanghai in 1932-1934 under the series of "Variétés sinologiques".

(BSBS L6.2.1.003, Lib.197.02/PF)

Partial translation in Chinese: 入華耶蘇會士列傳. Tr. by Fèng Chèng-chün (馮承鈞). Taipei, 1938, 1960. 5, 2, 212 p.

(BSBS L6.2.1.003, Lib.197.02/PF)

Posova, T. K. & Chizhikova, K. L. 1999. Kratkī katalog indiiskikh rukopisei Instituta vostokovedeniia RAN. Moskva: "Vostochnaia Literatura". 168 p.

http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=136

(BSBS B1.2.6.001, Lib.R929.8100)

Pouillon, François (éd.) 2008. Dictionnaire des orientalistes de langue française. Paris: Karthala. xxii, 1007 p.

(BSBS L11.2.3.004, Lib.R220/PO)

Preissler, Holger 1995. Die Anfänge der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft. Göttingen. 92 p.

Erweiterter Sonderdruck aus der ZDMG, 145, 2, 241-327.

<https://menadoc.bibliothek.uni-halle.de/dmg/periodical/titleinfo/150669>

(BSBS L11.2.4.1.001, Lib. 220/PR)

de Rhins, Jules Léon Dutreuil 1897-98. Mission scientifique dans la haute Asie 1890-1895, 3 vols. Paris: E. Leroux.

<http://dsr.nii.ac.jp/toyobunko/VIII-1-B-26/index.html.en>

(BSBS L11.2.4.1.001, Lib.V292.9609/RH)

Risshō University Library (立正大学図書館) 1991. 立正大学図書館蔵明版仏典解題目録 [Descriptive catalogue of the Southern Ming edition of Buddhist texts kept at Risshō University Library]. 東京 : 立正大学図書館. 73 p.

<http://hdl.handle.net/11266/5569>

(BSBS G1.2.14.002, Lib. R180.321/RI)

Rocher, Ludo 1977. Paulinus a S. Bartholomaeo: Dissertation on the Sanskrit language. A reprint of the original Latin text of 1790, together with an introductory article, a complete English translation, and an index of sources. Amsterdam: Benjamins.

- xxviii, 224 p. (Amsterdam studies in the theory and history of linguistic science, Series III . Studies in the history of linguistics, 12)
(BSBS M1.6.001, Lib. 829.825/BA)
- Rocher, Rosane 1968. Alexander Hamilton (1762-1824): a chapter in the early history of Sanskrit philology. New Haven: American Oriental Society. xii, 128 p. (American Oriental series, 51)
(BSBS M1.24.004(1), Lib.829.820/RO)
- Rocher, Rosane 2001. The knowledge of Sanskrit in Europe until 1800. In: History of language sciences: an international handbook on the evolution of the study of language from the beginnings to the present, 2. Berlin: de Gruyter. p. 1156-1163. (Handbücher zur Sprach- und Kommunikationswissenschaft, 18)
(BSBS L1.070, Lib.801.02/AU/2)
- Roşu, Arion 1993. Les missionnaires dans l'histoire des sciences et des techniques indiennes (1): Un inédit jésuite sur la phytothérapie indienne au XVIIIe siècle. In: Journal of the European Āyurvedic Society, 3, 174-228.
- Schilling von Canstadt, Paul 1831. Index du Gandjour. imprimé dans le Couvent de Goumboum dans le Tibet. Kiakhta. [未見資料]
(BSBS [D1.2.10.001])
- Schmidt, I. J. 1845. Bka' 'gyur gyi dkar chag: oder, Der Index des Kanjur. Hrsg. von der Kaiserlichen Akademie der Wissenschaften u. bevoorwortet von I. J. Schmidt. St. Petersburg. 215 p.
<https://archive.org/details/bdrc-W1KG15233>
(BSBS D1.2.2.001.*1, Lib.R180.321/SC)
- Senart, Émile 1898. Le manuscrit Kharoṣṭhī du Dhammapada: les fragments Dutreuil de Rhins. In: JA, 193-308.
<http://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k5778522d.textelImage>.
- Serre, Jacques 2008. La mission de Dutreuil de Rhins en Haute-Asie (1891-1894). In: CRAI, 3, 1257-1271.
https://www.persee.fr/doc/crai_00650536_2008_num_152_3_92355.
- Serruys, Henry 1977-78. On some titles in the Mongol Kanjur. In: MS, 33, 424-430.

(BSBS E1.2.1.1.002(3))

Serruys, Henry 1980. On some 'editorial' terms in the Mongol Ganjur. In: BSOAS, 43, 520-531.

(BSBS E1.2.1.1.002(4))

Société Asiatique 1922. Le livre du centenaire (1822-1922). Paris: Paul Geuthner. viii, 294 p.

Ptie. 1: Historique de la Société, par L. Finot, 1-65.

Ptie. 2: Cent ans d'orientalisme en France, 67-294.

<https://archive.org/details/lelivreducentena00sociooft/page/47/mode/1up?view=theater>

(BSBS L11.2.3.5.003, Lib.220.04/SO)

Sommervogel, Carlos (éd.) 1890-1909. Bibliothèque de la compagnie de Jésus, ptie. 1: Bibliographie, t. 1-10. Par Pères Augustin et Aloys de Backer. Nouvelle éd. Paris: Alphonse Picard.

(BSBS Abbreviations BCJ, Lib.V198.25/1-10)

Stache-Rosen, Valentina 1990. German Indologists: biographies of scholars in Indian studies writing in German, with a summary on Indology in German speaking countries. 2nd rev. edition by Agnes Stache-Weiske. New Delhi: Max Mueller Bhavan. xii, 271 p.

(BSBS L1.2.9.012, Lib. R129.102/ST)

Sueki, Yasuhiro 末木康弘 2022. ロシアに所蔵される仏典写本・版本のコレクション概観 目録を中心として (An overview of the collections of Buddhist manuscript and blockprint editions in Russia: with a focus on catalogues). In: JICPBS, 26, 19-97.

<http://id.nii.ac.jp/1153/00000593/>

Sugawara, Yasunori 菅原泰典 1990. 瑜伽行・唯識論書 (The literature of the Yōgācāra school). In: 梵語仏典の研究 (A descriptive bibliography of the Sanskrit Buddhist literature), 3 : 論書篇 (Abhidharma, Madhyamaka, Yōgācāra, Buddhist epistemology and logic). 京都 : 平楽寺書店. p. 313-389.

(BSBS B2.002.0.1, Lib. 183.01/TS3)

Sutton, S. C. 1968. A guide to the India Office Library: with a note on the India Office

- Records. London: Her Majesty's Stationary Office. Reprint of 2nd ed. with corrections. London: Her Majesty's Stationery Office. xii, 122 p.
(BSBSC1.2.19.2.009(2), Lib.016.288/SU)
- Takata, Tokio 高田時雄 1996. レミュザ (Jean-Pierre Abel Rémusat [1788-1832]). In: 東洋学の系譜 欧米篇. 東京: 大修館書店. p. 37-47.
(BSBS L11.2.7.005, Lib.220/EG)
- Ts'ai, Yün-ch'ên 蔡運辰 1983. 二十五種藏經目錄對照考釋 [Comparative studies of twenty-five catalogues of the Chinese Buddhist canon]. 台北: 新文豐出版社. 2, 3, 2, 4, 760 p.
(BSBS G1.1.009, Lib.183.01/SA)
- Tsutsumi, Kazuaki 堤一昭 2017. 石濱純太郎の"モンゴル学事始" [The beginning of Mongolian studies by Juntarō Ishihama]. In: OUFUCブックレット, 10, 1. p. i-iv.
<https://hdl.handle.net/11094/60242>
- Turanskaia, A. A. 2021. Fragmenty mongol'skikh rukopisei iz oiratskogo monastyria Ablai-khit v kolleksiі Natsional'noі biblioteki Frantsii (Mongolian manuscript fragments from Oirat monastery Ablait preserved in the National Library of France). In: Tibetologii v Sankt-Peterburge: sbornik statei (Tibetology in St. Petersburg: collected papers), 2. Sankt-Peterburg: Peterburgskoe Vostokovedenie. p. 246-266.
http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=10617
(BSBS E2.2.7.2.001)
- University of Tokyo 東京大学 2010. 東京大学総合図書館所蔵嘉興大藏經 目錄と研究 [Catalogue and studies of the Jiaying edition of Chinese Buddhist canon kept at the General Library, University of Tokyo], 2: 研究篇. 横手裕編集・発行. 東京. 285, 8 p., 8 p. of illus.
平成 17 年度～21 年度文部科学省科学研究費補助金特定研究領域研究成果報告書
(BSBS G1.2.16.005, Lib.R180.321/BU)
- Vladimirtsov, B. IA. 1929. Čāntideva: Bodhicaryāvatāra. Mongol'skiī perevod Chos-kyi

ḥod-zer'a, 1: Tekst. Leningrad: Izd-vo Akademii Nauka. vi, 184 p. (BBu, 28)
http://www.orientalstudies.ru/rus/index.php?option=com_publications&Itemid=75&pub=6702.
(Lib.183.965/SA)

Walravens, Hartmut 2009. Friedrich Bischoff in memoriam. In: MS, 57, 495-532.

[Supplement]: F. A. Bischoff: Darstellung meines Lebenslaufes und meines wissenschaftlichen Lebenswerkes, 503-532.

(BSBS M3.064(1))

Watanabe, Kaikyoku 渡邊海旭 1918. 歐米の佛教 [Buddhist studies in Europe and America]. 東京：丙午出版社. 13, 5, 260 p.

<https://dl.ndl.go.jp/search/searchResult?identifierItem=JPNO&identifier=43025311>

(BSBS L1.1.004, Lib. 180.4/WA)

Reprinted in 壺月全集, 1, Tokyo 1933, 1-191; 壺月餘影 Tokyo, 1933, 1-191; 渡辺海旭論文集, Tokyo 1936, 1-191.

Waterhouse, David 2004 (ed.). Brian Hodgson: a biographical sketch. In: The origins of Himalayan studies: Brian Houghton Hodgson in Nepal and Darjeeling 1820-1858. London: RoutledgeCurzon. p. 1-24.

(BSBS M1.24.011(4), Lib.225.8/WA)

Windisch, Ernst 1920. Geschichte der Sanskrit-Philologie und indischen Altertumskunde, Teil 2. Berlin: Walter de Gruyter. (Grundriss der indo-arischen Philologie und Altertumskunde, Bd. 1, Heft 1, B)

(BSBS, L1.1.003. Lib.829.800/WI)

Winternitz, Moriz 1905. Catalogue of Sanskrit manuscripts in the Bodleian Library, 2. Begun by Moriz Winternitz, continued and completed by Arthur Berriedale Keith. Oxford: Clarendon Press.

<https://archive.org/details/CatalogiCodicumManuscriptorumBibliothSanskritP2>.

(BSBS B1.2.1.13.1.002)

Wu, Jiang 2017. Finding the first Chinese Tripitaka in the West: early European Buddhism, the 1872 Iwakura Mission in Britain, and the mystery of the Ōbaku canon in the India Office Library. In: Reinventing the Tripitaka: transformation of the Buddhist canon in modern East Asia. Ed. by Jiang Wu and Greg Wilkinson.

Lanham: Lexington Books, p. 3-39.

(BSBS G1.2.19.001(3), Lib.183.01/WU)

Yamaguchi, Susumu 山口益 1954. フランス佛教學の五十年 [Fifty years of Buddhist studies in France]. 京都: 平楽寺書店. 4, 182 p.

(BSBS L1.2.8.003, Lib. 180.7/YA)

Reprinted in the author's collected works (山口益仏教学文集), 2. Tokyo, 1973, p. 129-150.

Yamaguchi-ken Kyōiku linkai Bunka-ka (山口県教育委員会文化課) (ed.) 1992. 快友寺一切経調査報告書 [Report on the Chinese Buddhist canon kept at Kaiyūji Temple]. Yamaguchi: Yamaguchi-ken Kyōiku linkai. 18, 326 p.

(BSBS G1.2.14.003, Lib. R180.321/R1)

Yamamoto, Tatsurō 山本達郎 1954. パリ国民図書館所蔵安南本目録 (List of Annamese books in the Bibliothèque nationale, Paris). In: TGH, 36, 1, 87-107.

<http://id.nii.ac.jp/1629/00004633/>

(BSBS H1.1.2.001)

Yuyama, Akira 湯山明 1968. A bibliography of the Mahāvastu-avadāna. In: III, 11, 11-23.

(BSBS B3.1.2.2.001)

Yuyama, Akira 湯山明 1970. A bibliography of the Sanskrit texts of the Saddharma-puṇḍarīkasūtra. Canberra: Australian National University Press. xxxv, 115 p. (Oriental monograph series, 5)

<https://openresearch-repository.anu.edu.au/handle/1885/114961>

(BSBS B3.2.2.001, Lib.183.308/YU)

Yuyama, Akira 湯山明 1979. Systematische Übersicht über die buddhistische Sanskrit-Literatur = A systematic survey of Buddhist Sanskrit literature, 1: Vinaya-Texte. Wiesbaden: Franz Steiner. xxiii, 54 p.

(BSBS B3.1.1.001, Lib.R180.320/BE)

Yuyama, Akira 湯山明 1988. インド学仏教学の黎明 (The dawn of Indian and Buddhist studies in the West). In: 印度哲学仏教学 (Hokkaido Journal of Indological and Buddhist Studies), 3, 323-348.

(BSBS L1.1.059)

Yuyama, Akira 湯山明 1992. A select bibliography on the Sanskrit language for the use of students in Buddhist philology. Rev. ed. Tokyo: Library, International Institute for Buddhist Studies. viii, 24 p. (Bibl. Ind. Buddh, pamphlet 1)

First edition published in 1983.

(BSBS K16.2.001, Lib.R829.823/YU)

Yuyama, Akira 湯山明 1994. ビュルヌーフの法華経研究の学史的周辺 近代印度学仏教学の最初期を飾る人々 (M. E. Burnouf's contribution to the study of the Lotus Sutra: discussed in relation to the history of researches in Indological and Buddhist studies). In: HBK, 20, 37-106.

<http://hdl.handle.net/11266/00008533>

(BSBS M1.10.9.009(5))

Yuyama, Akira 湯山明 2000. Eugène Burnouf: the background to his research into the Lotus Sutra. Tokyo: International Research Institute for Advanced Buddhology, Soka University. xiv, 192 p. (Bibliotheca Philologica et Philosophica Buddhica, 3)

<http://iriab.soka.ac.jp/publication/bppb.html>

(BSBS M1.10.9.009(5), Lib.183.308/YU)

<キーワード>

仏教写本、仏教版本、目録、解題、書誌研究

Summary

An Overview of the Collection of Buddhist Manuscripts and Blockprint Editions in the National Library of France: With a Focus on Catalogues

Yasuhiro SUEKI

A huge number of Buddhist manuscripts and blockprint editions have survived not only in Asia but also in Western countries. The public institutions or private persons in their possession have published numerous catalogues and/or various bibliographical materials dedicated to their collections. Getting the full picture of the entire extent of the bibliographical sources remains, however, a daunting task.

I hope this contribution will offer some assistance in this direction by providing an overview of the collection of Buddhist manuscripts and blockprint editions kept at the National Library of France (Bibliothèque nationale de France: BnF), where materials in Oriental languages have been collected since the early 18th century. The paper gives relevant information on the catalogues and basic bibliographical tools necessary for making effective use of this collection. Further details are provided in those cases when there is something noteworthy about a particular collection, collector, or catalogue editor.

This survey covers the collection of Sanskrit, Pāli, Tibetan, Mongolian, and Chinese manuscripts and blockprint editions. It is well known that the National Library of France holds the Dunhuang manuscripts collected by Paul Pelliot (1878-1945). This paper will therefore not cover them.

The bibliographical works quoted in this paper are based on the latest version 3.1 of my *Bibliographical Sources for Buddhist Studies: from the*

フランス国立図書館に所蔵される仏典写本・版本のコレクション概観（末木） 155

Viewpoint of Buddhist Philology released in October 2022.

*Senior Research Fellow,
Buddhist Bibliography Project,
International College
for Postgraduate Buddhist Studies*